令和４年度指定（地域社会学科）

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

令和５年度研究開発実施報告書（第２年次）

島根県立隠岐島前高等学校

目　次

1　構想概要

新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）構想調書・・・・・・・・・・3

2　研究開発実施報告

令和５年度　研究開発実施計画書（抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

令和５年度　研究開発計画および実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

研究開発計画１：地域共創科（学校設定科目：地域未来共創）の始動

研究開発計画２：グローカル未来共創のカリキュラム開発

研究開発計画３：成果目標、活動指標の検証

研究開発計画４：振り返りと改善

研究開発に係る評価

運営指導（共創）委員会記録

3　資料

（１）構想概念図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

（２）目標設定・・42

（３）普通科改革支援事業ロジックモデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

（４）事業評価資料高校魅力化評価システム（６月実施）結果・・・・・・・・・・・・・・・・43

（５）事業評価資料高校魅力化評価システム（１回目・２回目比較）結果・・・・・・・・・・46

（６）普通科改革支援事業第３回コーディネーター研修資料・・・・・・・・・・・・・・・・48

（７）中間発表プロジェクト一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

1　構想概要

地域との協働による高等学校教育改革推進事業構想調書

1　研究開発構想名

離島発　「グローカル人材」を育成するための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発

2　研究開発の目的・目標

（１）目的

ｉ）目的①：「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発

本構想の第一の目的は、グローカル人材の育成につながる「教科学習・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発である。この開発を通して、グローカル人材に必要な4つの資質・能力である「主体的行動力・多文化協働力・探究的学習力・社会的自立力」を身につけていく。

これまでは「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」等により、探究学習と教科学習とをつなぎ、「総合的な探究の時間」の中で、各教科の観点から地域課題を探究する授業や、各教科（科目）同士でのコラボレーション授業の実践、教科を地域と関連づけて行う授業実践やシラバス改訂などを行うなど、教科（科目）横断的に教育内容を再構築するための研究開発を進めてきた。しかし、本校が目指す資質・能力が十分に育成されているとは言い難く、さらなる強化・改善の余地がある。

令和5年度は校内に「授業共創プロジェクト」を立ち上げ、より組織的に研究開発を推進できる体制を整えた。これにより、これまでの研究成果を存分に活かしながら、その学習スタイルをさらに発展させ、教科学習と探究学習とが有機的に融合していくカリキュラムの開発を目指し、4つの資質・能力のさらなる習得を目指す。また、「教科の学びで習得した知識・技能や視点を地域探究の実践に活かす探究性重視の普通科」と「圧倒的な地域実践を基に、必要な学びを接続・深化する地域共創科」と、学びの特性を色分けすることで、指導の個別化と学びの個性化を図る。

主体性	自己肯定感・有用感	自分にはよいところがある。自分自身に満足している。
	課題設定力	現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる
	行動力	自分で計画を立てて活動することができる。
	粘り強さ	うまくいかないことにも忍耐強く取り組むことができる。
協働性	受容力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる。
	対話力	相手の意見を丁寧に聞くことができる。
	表現力	友達の前で自分の意見を発表することができる。
	共創力	共同作業において，自分の力が発揮できる。
探究性	学びの意欲	自分から勉強することができる。
	情報活用能力	情報を理解し、勉強したことを活用することができる。
	批判的思考力	問題を順序だてて考えることができる。
	省察力	自分を客観的に理解することができる。
社会性	地域貢献意識	地域の役に立ちたいと考えている。
	社会参画意識	地域や社会での問題やできごとに関心がある。
	グローカル意識	地域の課題と世界の課題を関連づけることができる。
	持続可能意識	地域文化や暮らしを，自分の手で未来に伝えたいと考えている。

本校で定める４つの資質・能力

ⅱ）目的②：より共創的な運営体制

第二の目的は、チーム学校・地域を超えた「地域社会に開かれたチーム」によって本構想の実現に挑むことである。本校の生徒や教職員、授業や高校魅力化コンソーシアムなどで関わる地域の関係者だけでなく、本事業の運営指導委員をはじめ、様々な形で本校に関わる地域内外の応援者たちと手を取り、本構想を共に創っていくことで、様々な叡智を結集して必要な人的・物的リソースを効果的に組み合わせながら活用できる体制を構築する。

ⅲ） 目的達成を通して目指したいこと

上記の目的を果たすことで、結果として全国に先駆けて本事業に挑む本校が、今後、とくに人口減少の著しい離島・中山間地域での普通科改革に挑む地域・学校のロールモデルとなり、その過程で得られた経験や知見も含めて、広く社会に公開したい。ひいては全国的に地域に思い入れや熱量のある若者を輩出することに貢献し、都市部から地方部への人材還流まで視野に入れて構想の実現を目指したい。

（２） 達成目標

ⅰ） アウトプット

グローカル人材に必要な力は「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の4つの資質・能力である。

卒業までに4つの資質・能力にどのような変化があるか、生徒の「自己能力認識」および「行動実績」を定量的に調査する。具体的には、80項目のアンケート調査を実施し、「主体性」、「協働性」、「探究性」、「社会性」の「自己能力認識」で肯定的意見が78％以上となるよう、「行動実績」では肯定的意見が80％以上となるよう数値目標を設定する。

また、生徒が育つ環境を「安心・安全の土壌」、「多様性の土壌」、「対話の土壌」、「開かれた土壌」と定義し、生徒および大人（コンソーシアム構成員および本校教職員）にアンケート調査を実施する。具体的には、各土壌における生徒の肯定的意見、大人の肯定的意見ともに90％以上となるよう数値目標を設定する。

以上を踏まえ、アウトプットには、「a.主体性、協働性、探究性、社会性における自己能力認識で肯定的意見が78％以上」、「b.主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80％以上」、「c.安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90％以上」を設定し、上記調査結果を基に、カリキュラムの研究開発や授業改善に活用する。

ⅱ） アウトカム

グローカル人材の育成に向けて、「教科学習と探究学習とが有機的に融合したカリキュラム」を通して、生徒の学びの個性化と教職員の指導の個別化を、普通科・地域共創科の両面から推進することで、よりグローカルな進路選択が全体の20％以上まで拡がるよう、進路選択についての数値目標を設定する。とくに卒業後の生徒の自己実現のために本校での学びを活かし、グローカルなビジョンを描き、マイテーマをよりグローバルやローカルな観点から深めていくことを望む生徒が増えることを目指す。

また、卒業後も隠岐島前地域や日本全国で開催される共創に関わるワークショップやプログラムに参加するなど、積極的に島前地域に関わろうとする生徒数が20名以上になるよう、数値目標を設定する。

以上を踏まえ、アウトカムには、「a.卒業後のグローカルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや

海外への進学、地域協働系学部への進学の割合が20％以上」、「b.卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口・還流人口数）が20名以上」を設定する。

3　研究開発の背景

（１）本校を取り巻く状況

離島に位置する本校および隠岐島前地域の育てたい人材像は、これまで様々な事業でも掲げてきたとおり「グローカル人材」である。グローカル人材は「地球的視野で直面する事象や課題を俯瞰し、考えながら、解決に向けて足元から実践していける人材」であり、同時に「ふるさとや地域を想いながら、実践家として活躍できる人材」と定義し、地域からも世界からも「求められる人材・愛される人材」を育成することが本校の使命であると考える。世界に先駆けて「課題先進地」となった隠岐島前地域が現実的に抱える地域課題の解決や課題を逆手に取った価値の創造に挑み、地域の課題や価値と地球規模の課題や価値とを「結びつけて」思考し、世界のどこにいても実践者として活躍できる人材となることが地域社会にとっても、これからを生きる生徒にとっても重要である。

（２）「地域共創科」を設置する必要性

本構想では、地域共創科を設置することで、これまでよりもさらにグローカルなフィールドで学ぶ機会や環境を整備し、より地域・社会に開かれた形でのグローカル人材の育成を目指す。

そのためには、グローカルなフィールドでの地域課題解決型・価値創造型の探究学習が不可欠である。これまでも、グローカルなフィールドでの地域課題解決型・価値創造型の探究学習を通して、「気づく/考える/話し合う/実践する・巻き込む/振り返る」という本校独自の学習と行動の学びのサイクルを回すことで、主体的行動力・多文化協働力・探究的学習力・社会的自立力を身につけることができるようカリキュラムを設計してきた。これらの力を着実に身につけるためには、より深くグローカルに根ざし、サイクルを何度も何度も回しながら学びを深めていくことが必要になる。ところが、現行のカリキュラムでは時間的な制約から、生徒にとっても教職員にとってもサイクルが一度しか回せないなど、挑戦が中途半端になってしまうことが課題であった。そこで本事業では、従来の普通科とは別に新たに地域共創科を設置することでより積極的に特色化・魅力化を図り、6校時連続で丸一日地域に飛び出したり、リフレクションの技術を学ぶことで新たな学びにつなげたりすることのできる「地域共創 DAY」を設置することでその課題を解決する。これに伴い、本校独自の学びのサイクルを、「気づく/考える/話し合う/実践する・巻き込む/成功する・失敗する/振り返る」という行動と内省のサイクルにアップデートし、失敗を恐れずにさらなる「挑戦」を促していく仕組みと、その挑戦を深い学びにつなげるための「振り返り」を教職員・生徒共に学校全体で推進していく。

四年制大学から就職まで、多様な進路を希望する本校の生徒に対し、共通したカリキュラムの中で指導の個別化を図ることについては課題を抱えていた。2年次から学科が分かれることで、「教科の学びで習得した知識・技能や視点を地域探究の実践に活かす探究性重視の普通科」と「圧倒的な地域実践を基礎に、必要な

教科の学びを接続･深化する共創科」とに学びの特性を色分けし、指導の個別化と学びの個性化を図る。また、両学科とも教科学習と探究学習との有機的なつながりを目指したカリキュラムを開発することで生徒の進路実現を目指す。

4　実施計画

（１）令和４年度（指定初年度）

① 新学科カリキュラム準備委員会の設置

令和5年度からの本格的なカリキュラム始動に向けて、新学科カリキュラム準備委員会を設置し、カリキュラムの確定と運営体制の確立を令和4年度末までに行う。また、地域内外の協力体制を整える役割も担う。

② 学校経営目標推進委員会の設置

学校全体として、本構想の実現や行動と内省の学びのサイクルを推進していけるよう、「失敗を共に称え合う学校」をスローガンに掲げ、生徒および教職員が失敗を恐れずに挑戦できる風土や仕組みを構築し、同時に、運営指導委員の熊平委員の協力を得ながら、リフレクション（振り返り）を日常のあらゆる場面で行えるように促進する。

③ 普通科・地域共創科に向かうための新しい「総合的な探究の時間」の実施

学科選択によって、普通科と地域共創科とに分かれる前段階である、1年次の「総合的な探究の時間」のカリキュラムを見直し、各教科との有機的な融合を図ることはもちろんのこと、学校行事や HR 活動とも連動した教育活動を推進する。

④ 探究学習の「評価」研究

運営指導委員の喜多下委員の協力を得ながら、探究学習の「評価」について研究し、効果検証を行う。

⑤ 成果目標、活動指標の検証

これらについて関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

（２）令和５年度（今年度）

① 地域共創科（地域未来共創）の始動

令和４年度に新学科設置委員会を中心につくったカリキュラムと運営体制をもとに始動する。また、新学科設置委員会は、地域共創科担当チームとして改編し、地域共創科の運営とそれに伴い発生する問題点の改善等を推進する。

② グローカル未来共創のカリキュラム開発

地域未来共創を稼働させながら、そこで発生した問題点なども踏まえて、令和４年度に確定させたカリキュラムを修正・調整していく。

③ 成果目標、活動指標の検証

これらについて関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

（３）令和３年度（指定完成年度）

① 地域共創科（グローカル未来共創）始動

令和５年度に確定したカリキュラムを稼働させ、PDCA サイクルを回す。

② 成果目標、活動指標の検証

これらについて関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

5　研究開発の実施体制

（１）管理機関の実施体制

県教育庁内に組織横断型の会議体およびチームを組成

・ 組織横断の枠組みにより、事業全体及び各校の取組状況を組織全体で共有する。

・ 直面している課題等に対して、組織全体で対応していくことを可能とする。

① 県立高校魅力化ビジョン推進本部

・ 教育庁の部長級をトップとして関係所属の長で構成する組織。

・ 月1回程度開催し、事業全体や各校の取組状況を確認する役割を担う。

② 庁内横断チーム（仮称：地域協働チーム）の組成

・ 地域との協働による教育の特色化･魅力化等に関わる所属で組織。

・ 学科等を所管する管理部門（学校企画課）に加えて、地域との協働体制やカリキュラム等を所管する指導部門（教育指導課）を中心として構成。

・ このチームで各校に対する実務的な伴走を行うことで、顔の見える関係を構築するとともに、各校が直面する課題に対して、組織の枠を越えて、迅速な対応や支援を行う役割を担う。

（２）運営指導委員会の構成と位置付け

ｉ）運営指導（共創）委員会

運営指導（共創）委員会は、下記のメンバーで構成する。

所属	氏名	主な実績
学校法人早稲田大学 教育･総合科学学術院	藤井 千春 （運営指導委員長）	本校での「スーパーグローバルハイスクール事業」および「地域との協働による高校教育改革推進事業」における運営指導委員長
一般社団法人 21 世紀学び研究所	熊平 美香	『リフレクション 自分とチームの成長を加速させる内省の技術』著者
三菱 UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社	喜多下 悠貴	島根県全体で導入している「高校魅力化評価システム」開発者
国立大学法人島根大学 教育学研究科	松尾 奈美	研究テーマ「探究学習を教科学力につなげる深い学びの実現」
海士町立海士中学校	道川 一史	第4回 NITS 大賞優秀賞「学びがつくる三方よし ～社会に開かれた総合的な学習の時間～」

ⅱ）運営指導（共創）委員会の位置付け

本構想における運営指導委員会は、単に指導･助言をいただく委員会に留まらず、本構想を、それぞれの委員の専門性を活かし、様々な観点から考察し深めていくために、共に創る「運営『共創』委員会」と位置付ける。道川委員とは、本構想における地域にとっての価値やインパクト、小中学校との協働のあり方を共に考え、喜多下委員とは、探究学習の「評価」の仕組みを共に創る。また、熊平委員とは、行動を学びにしていくための「リフ

レクション（振り返り）」について共に開発し、藤井委員と総合的に考察していく。また、本構想の実践や成果を松尾委員に論文の形でまとめていただくことを想定している。

（３）コンソーシアムの体制

コンソーシアムは、既に設置済みである「島根県立隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会」と「島根県立隠岐島前高等学校魅力化推進協議会」をベースに再構築し、地域との連携・協働をはじめ、様々なステークホルダーとの協働を推進する。また、本構想における「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を深化・発展させることを念頭に人選を行う。あわせてコンソーシアムには、本校管理職、学校経営補佐官、主幹教諭、コーディネーターが会員や事務局として入る。

コンソーシアムでは、年度始めに当該年度の目標設定を共有し、年に6回程度の会議を設け進捗状況を報告する。年度末には、目標の結果や評価について共有し、次年度以降の指導・助言を受ける機会を設ける。

機関名	機関の代表者名
島根県教育委員会	教育監　　柿本　章
島根県立隠岐島前高等学校	校長　　野津　孝明
一般財団法人 島前ふるさと魅力化財団	常務理事　　大野　佳祐
隠岐國学習センター	センター長　　竹内　俊博
一般財団法人 地域・魅力化プラットフォーム	理事・会長　　水谷　智之
海士町	町長　　大江　和彦
海士町教育委員会	教育長　　井筒　秀明
西ノ島町	町長　　坂榮　一秀
西ノ島町教育委員会	教育長　　澤　純子
知夫村	村長　　平木　伴佳
知夫村教育委員会	教育長　　渡部　真也

（４）コーディネーターの配置と役割

ｉ）コーディネーターの配置

コーディネーターには、以下の２名を配置する。

所属	氏名
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	大野 佳祐（おおの けいすけ）
一般財団法人島前ふるさと魅力化財団	BERZENY GISELE（バーズニー ジゼル）

ⅱ）コーディネーターの役割

①地域・学校コーディネーター　１名（大野佳祐）

地域・学校コーディネーターには、月に10日程度の勤務で、校内におけるコーディネート機能と地域におけるコーディネート機能の両面を期待する。とくに校内におけるコーディネート機能の面では、カリキュラムや授業における地域連携の企画運営、年間指導計画の策定支援を中心に関わる。また、本構想を、学校全体として推進していけるよう、学校管理職と共に学校経営会議や学校経営目標推進委員会のメンバーとしても関わる。地域におけるコーディネート機能では、生徒の海外留学等の支援・調整や卒業生と在校生、卒業生と産業をつなぐ機会の設計・運営を中心に関わる。大きくは、このように設計・運営面での仕組みの構築や推進体制づくりの

ところに関わることで、結果として本構想の目的および目標の達成に貢献することを期待する。

②グローバル・コーディネーター　１名（バーズニー ジゼル）

グローバル・コーディネーターには、月に10日程度の勤務で、主にグローバルとの接続やグローバルでの活動のサポートを担うことを期待する。とくに海外での探究活動を推進する際のコーディネート機能を担うことで、教職員の負担を軽減する役割を担う。また、日常的な探究学習の場でも海外での事例紹介や外国人目線での指摘など、日本人だけでは実現できないグローカルな多様性を担保する上での役割と期待は大きい。

（５）事業終了後の取組計画

本構想は、これまで本校が実施してきた体制に基づいて企画しているため、指定終了後も事業継続は十分に可能である。

事業内容については、本構想に基づいて開発・研究を進めながらPDCA サイクルを回し、次年度以降につなげていく。また、運営指導委員には、仮に本事業が終了しても「運営共創委員」として関わり続けてもらい、自走できるまでの仕組みを整えていく。さらに、指定期間の中で「学び共創フォーラム（仮）」を積極的に実施しながら、知見を深めていく機会をつくることで、教職員が自走できる力をつけていく。

（６）国の指定終了後の事業経費計画

必要となる経費については県費の他、引き続き地元三町村と連携して、ガバメント・クラウドファンディングやふるさと納税を活用するかたちで調達できるよう指定期間内に関係機関と調整を行っていく。また、本校と連携・協働している一般財団法人島前ふるさと魅力化財団では、本校の取り組みを応援する層からの資金援助や本校の実践を活かした学びのプログラム（研修旅行の受け入れや講演・研修等）の提供を進めていきながら資金調達できるようにしていく。

（７）学校の実施体制

ⅰ）学校経営会議による学校経営としての推進・体制づくり

本構想は、学校経営目標の中に明確に位置づけ、学校全体として全教職員で推進する。本校の管理職・学校経営補佐官・主幹教諭・コーディネーターで構成されている学校経営会議の中で、本構想を含めた地域共創科についての進捗確認を行い、学校経営の観点から本構想推進における様々な事項の判断や体制づくりを支援する。また、年度末には、学校経営目標における振り返りを行い、その振り返りを基に翌年度の目標を立て、それが達成できる体制を構築する。

ⅱ）推進委員会の設置

本構想を含めた、学校経営目標を推進するための「推進委員会」を設置する。推進委員会は主幹教諭をリーダーとして、教職員の有志とコーディネーターとで委員を構成する。推進委員会では、学校経営目標を戦略的かつ具体的目標に落とし込み、目標達成に向けてPDCA サイクルを回しながら実行する。適宜、全教職員に開いて意見を募るタイミングをつくるなど、推進委員だけで閉じないよう注意する。

ⅲ）運営委員会や教科主任会での進捗確認や連携

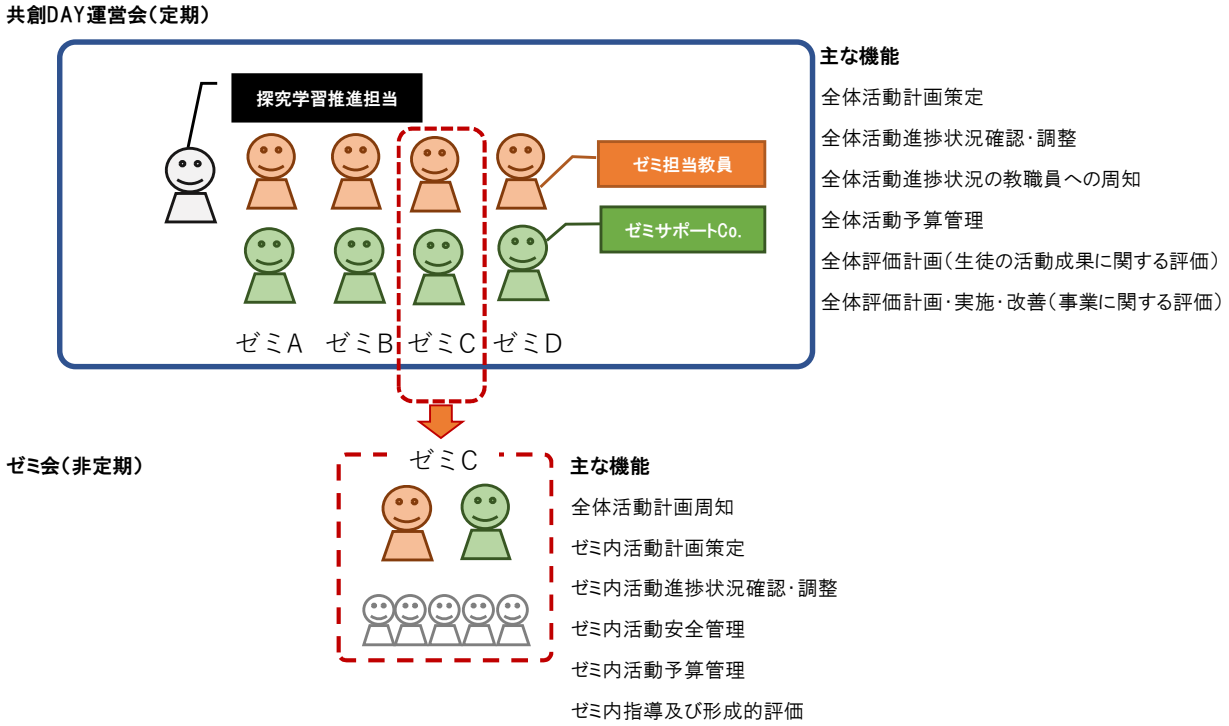
管理職や学年主任、分掌の主任が集まる運営委員会の中でも、学校経営目標の進捗確認や本構想についての意見聴取を実施する。また、構想推進について、運営委員を基点に各学年部や各分掌とも連携しな

がら推進する。

教科主任会では、本構想における第一の目的にも掲げた「グローカル人材の育成につながる教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発について、特に教科の観点から、探究学習とどのように有機的に接続し、融合していくのかを考察し、実行する。

ⅳ）学年部＋コーディネーターによる学年単位での推進

本校では、現在も「総合的な探究の時間」を各学年部で推進している。学校経営推進委員会での施策や教科主任会で練られた「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」を踏まえながら、学年部と校内コーディネーターとが連携・協働し、本構想を推進していく。



学年部＋コーディネーターによる「地域未来共創」運営体制

（８）生徒・保護者・地域等への説明

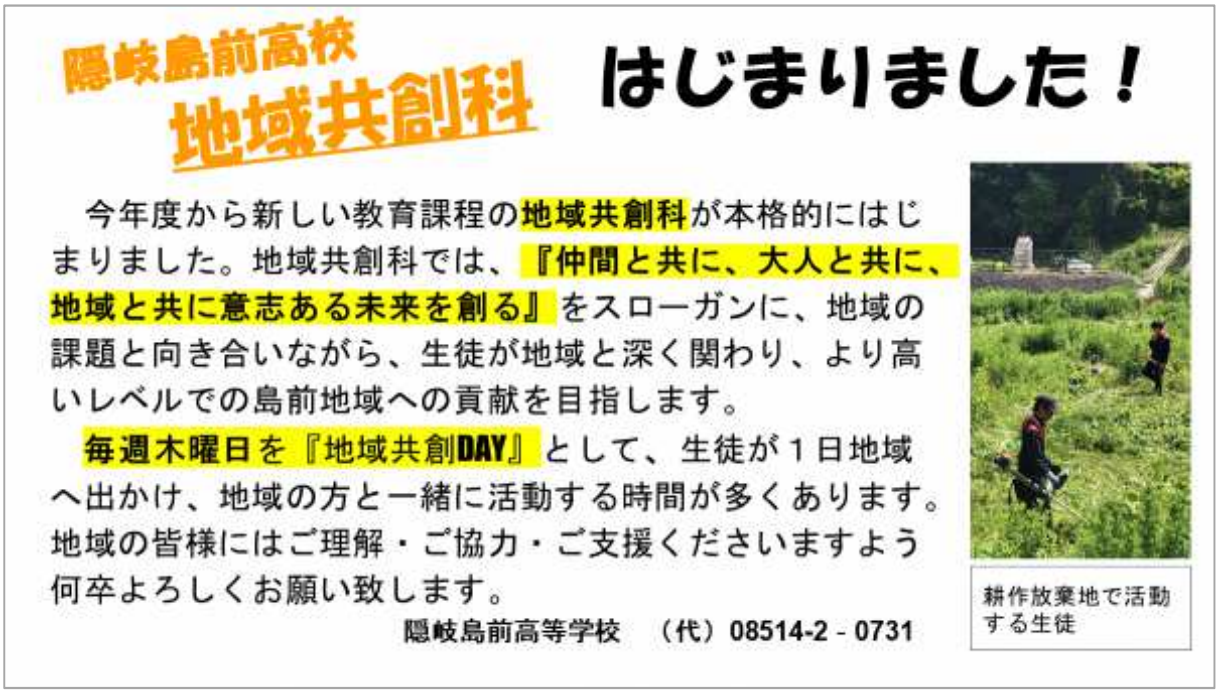
地域の島内中学生・保護者に向けては、学校説明会やオープンスクールの中で、地域共創科について情報提供し、とくに普通科との違いや想定される進路などを踏まえた説明を実施した。同時に、三町村の教育委員会や小中学校等の教育機関に対しては、これまで行ってきた生徒同士の交流だけでなく、教職員同士の連携・交流の深化を測り、地域共創科についての理解や設置背景、目的や目標について理解を深める機会をつくった。

島留学生となる島外の中学生・保護者に向けては、学校独自に開催するオンライン説明会やオープンスクールの中で地域共創科について情報提供し、具体的にどのようにカリキュラムが進行するのか等について説明する機会を設けた。

第2学年時に学科選択をする第1学戦生徒・保護者に対しては、学科選択説明会を複数回実施し、生将来のキャリアイメージと紐付けながら教職員等が面談等のサポートをし、適切に学科選択できるよう支援した。

また、地域共創科での日々の実践を地域内外の情報媒体や学校ホームページ等にて適宜情報発信し、将来的には高校卒業後の進路や社会での活躍にも触れながらより広く情報発信していく。

地域共創科の取り組みを紹介する学校ホームページ



地域内広告での告知

令和５年度研究開発計画および実施報告

令和５年度 研究開発実施計画書（抜粋）

１　研究開発名

離島発「グローカル人材」を育成するための「地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント」の探究

２　令和５年度の研究開発実施計画

（１）地域共創科（学校設定科目：地域未来共創）の始動

前年度に構築した、新学科カリキュラム準備委員会を地域共創科担当チームとして再構成し、地域共創科の運営と、それに伴い発生する課題を改善するなど PDCA サイクルを回す役割を担う。

（２）グローカル未来共創のカリキュラム開発

地域共創科（地域未来共創）を稼働させながら、そこで発生した課題なども踏まえて、令和４年度に確定させたカリキュラムを適宜修正・調整する。

（３）成果目標、活動指標の検証

（１）・（２）の取り組みについて、関係機関との協議も踏まえ、成果目標、活動指標の検証を行う。

（４）振り返りと改善

（３）の検証結果も踏まえ、年間の振り返りを行い、次年度につなげていく。

令和５年度の事業計画

	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
４月	･地域共創科本格始動 ･共創科担当チーム会議（毎週） ･校内新任教員研修 ･第１回学び共創フォーラム	･学校経営目標推進委員会の始動 ･第１回グランドデザイン PDCA 研修
５月	･共創科担当チーム会議（毎週） ･授業魅力化プロジェクト本格始動 ･失敗共創プロジェクト本格始動 ･振り返りプロジェクト本格始動	･第１回コンソーシアム会議 →地域共創科の始動報告･協力依頼 ･第１回探究学習推進担当者研修会
６月	･共創科担当チーム会議（毎週） ･資質･能力事前調査	･島内中学生向け説明会

７月	・共創科担当チーム会議（毎週） →一学期振り返り ・島内・島外生向けオープンスクール ・職員会議 →地域共創科設置に伴うカリキュラムと体制の進捗共有・意見聴取	・第1回運営指導（共創）委員会 →今年度の目標の確認と現状共有、目標達成に向けての対話 ・第2回コンソーシアム会議 →地域共創科の進捗共有と意見聴取
８月	・共創科担当チーム会議（毎週） ・グローバル探究（ブータン） ・アーバン探究（首都圏）	
９月	・共創科担当チーム会議（毎週） ・第2回学び共創フォーラムの実施 ・教員研修	・第1回コンソーシアム理事会 →地域共創科の進捗共有と意見聴取 ・第2回探究学習推進担当者研修会
１０月	・共創科担当チーム会議（毎週） ・島外生向けオープンスクール	・第2回グランドデザイン PDCA 研修
１１月	・共創科担当チーム会議（毎週）	・第3回コンソーシアム会議 →地域共創科の進捗共有と意見聴取・協力依頼
１２月	・共創科担当チーム会議（毎週） →二学期振り返り	・第2回コンソーシアム理事会 →地域共創科の進捗共有と意見聴取
１月	・共創科担当チーム会議（毎週） ・地域共創科（3年生始動）実施に向けた校内体制整備 ・学科選択本調査	
２月	・共創科担当チーム会議（毎週） ・資質・能力事後調査 ・地域共創科実施に向けた校内体制整備	・第4回コンソーシアム会議 →地域共創科の進捗共有 ・第3回探究学習推進担当者研修会 ・第2回運営指導（共創）委員会 →実践結果の効果検証と課題の共有 ・第3回グランドデザイン PDCA 研修
３月	・共創科担当チーム会議（毎週） ・地域共創科（3年生始動）実施に向けた校内体制整備 ・探究フォーラム	・第3回コンソーシアム理事会 →地域共創科の進捗共有

令和５年度 研究開発実施報告

研究開発計画１：地域共創科（学校設定科目：地域未来共創）の始動

１．目標

前年度に策定した学校設定科目「地域未来共創」の運営をとおして、圧倒的な地域実践による必要な学びの深化が実現できるよう、カリキュラム開発専門家と協働してカリキュラムを修正する。また、それに伴い発生する課題を改善することをとおして、探究学習に関する効果的な PDCA サイクルを確立し、その成果を「総合的な探究の時間」への応用に繋げる。

２．実践

（１）学校設定科目：地域未来創造の目標

様々な教科・科目や客観的事実に基づいた多面的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域の自然・文化・産業をはじめ地域の健全で持続的な発展を担う「グローカル人材」として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

① 地域の諸課題に対して多面的・総合的に分析し理解するとともに、課題解決に必要な知識・技能を身に付けるようにする。

② 地域における現代的諸課題を発見し、地域の住人として実践から得られた客観的根拠に基づいて他者と共創的に解決する力を養う。

③ 地域が抱える諸課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成及び新たな創造的価値の提案に向け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

（２）地域共創科担当チーム（共創 DAY 運営会）

昨年度設置した、新学科カリキュラム準備委員会を地域共創科担当チーム（共創 DAY 運営会）として再構成し、週に1回の定例会議を実施した。

構成員は、主幹教諭、地域教科主任（探究学習推進担当）、ゼミ担当教員、ゼミ担当コーディネーターとした。また、適宜カリキュラム開発等専門家にも会議に参加してもらい、助言・アドバイスをいただいた。

（３）地域未来共創カリキュラム

年間指導計画を次表のように策定・実行した。

<table>
<tr><th rowspan="2">月</th><th rowspan="2">週</th><th>学習項目</th><th colspan="3">学習内容</th><th rowspan="2">到達目標
（ルーブリック）</th><th rowspan="2">ゼミ活動指標</th><th rowspan="2">探究の指標</th></tr>
<tr><th>（単元）</th><th>1 限
2 限</th><th>3 限
4 限</th><th>5 限
6 限</th></tr>
<tr><td rowspan="2">4</td><td>3</td><td>共創 DAY とプロジェクトの進め方</td><td>オリエンテーション</td><td>安全管理</td><td>プロジェクト基礎
ゼミ紹介</td><td></td><td rowspan="6">先輩から学ぶ</td><td rowspan="6">広い視野でアイディアを錬る</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ゼミ選び面談・プロジェクト基礎論</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">5</td><td>2</td><td rowspan="4">テーマ設定
情報収集
フィールド調査</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="4">1～7</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td>1</td><td></td><td></td><td>進化思考 W.S.</td></tr>
</table>

	2	活動内容の具体化			進化思考 W.S.			
	3	構想発表準備			講義「生環境」			
	4	レポート課題（活動報告含む）	期末試験					
	5	構想発表 プロフェッショナル演習	構想発表		対話と議論 ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾙｰﾙづくり	5		
7	1	リフレクション・プロジェクト実践	面談（ルーブリック・ゼミ変更） プロジェクト活動			8～9		
	3	プロフェッショナル演習 プロジェクト実践①（活動 ⇄ 整理）	講義「共創とは何か」				自分(たち)でやってみる	足元で実践（実験・試行）
9	1	プロジェクト実践①（活動 ⇄ 整理）				8～11		
	2							
	3							
	4	レポート課題（活動報告含む）	中間試験					
10	1	プロジェクト実践①（活動 ⇄ 整理）						
	2							
	3							
	4							
11	1				海外の事例調査			
	2	プロジェクト実践①（活動 ⇄ 整理） 海外事例調査	海外の事例調査					
	4	レポート課題（活動報告含む）	期末試験					
	5	プロジェクト実践①（活動 ⇄ 整理）			海外研修旅行 振り返り	12～15		
12	1	リフレクション・研修旅行整理	面談（ルーブリック・ゼミ変更） プロジェクト活動					
	2	中間発表（グローバル視点に更新）	発表・ディスカッション					
	3	プロフェッショナル演習 プロジェクト実践②（活動 ⇄ 整理）	プロジェクトの更新		講義「地球規模で考える」	5～6		世界と関連づけて実践
1	2	プロジェクト実践②（活動 ⇄ 整理）				6～11		
	3							
	4							
2	2	プロジェクト実践②（活動 ⇄ 整理）						
	3	レポート課題（活動報告含む）	学年末試験					
	4	プロジェクト実践②（活動 ⇄ 整理）				6～11		
	5	リフレクション	面談（ルーブリック・ゼミ変更） プロジェクト活動					
3	1	プロフェッショナル演習 プロジェクト実践②（活動 ⇄ 整理）	講義「失敗」					
	2	プロジェクト実践②（活動 ⇄ 整理） ゼミ合同進捗共有			進捗共有会（希望者）			
	3				進捗共有会（希望者）			

（３）探究学習を効果的に推進する「プロジェクト基礎論」の展開

「地域共創科」第１期生となる今年度の第2学年により、学科スローガンを「仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る」と制定した。これは「多様な主体と協働し1つのプロジェクトを立案・実行」する学習と言える。このような学習には、プロジェクトを立案・実行するうえでの基礎的な知識・スキルが必要である。

プロジェクト（地域共創活動）を進めるための基礎的知識や思考フレームを右表のカテゴリで 51 項目抽出した。

大区分	中区分
探究	課題設定
	情報収集
	整理・分析
	まとめ・表現
管理スキル	目標管理
	タスク管理
	スケジュール管理
実現スキル	思考スキル
	ゴール設定
その他	隠岐島前基礎情報

これらを重要度別に5段階に分類し、重要度の高い項目は地域共創科全体や、ゼミの中で講義、演習することで定着を図った。重要度の低いものは、生徒の状況に合わせて適宜、教材提供することで指導の個別化を図ることとした。

重要度	レベル内容
Must	地域共創科全体で講義、演習を行う。生徒が動き出す前に取り扱う。
重要度１	地域共創科の各ゼミで活動初期に取り扱うことが望ましい
重要度２	地域共創科の各ゼミで生徒の活動状況や計画を合わせて適宜取り扱うことが望ましい。
重要度３	情報や国語など他科目で取り扱う内容又はその工夫が可能なもの。
重要度４	地域共創科の各ゼミ担当者が、必要に応じ使えるように理解・把握しておくことが望ましい。

プロジェクト基礎論について説明する授業スライドの一部

（４）持続可能な学習スタイルとしての「ゼミ」の設置

「総合的な探究の時間」等の探究的な学びにおいては、主体的な学びの視点から、生徒実社会や実生活と自己との関わりから問を見出し、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自分で立てることが大切であるとされている。このため、探究学習に関する参考資料の中には、「他者から与えられた課題（ミッション）をテーマとして取り組むのよりも、生徒の興味関心をテーマにした探究が望ましい」「自分自身の興味関心と結びつかないものであれば、やらされ感しかなく、主体的な学びとは言いづらい」といった解説が散見される。

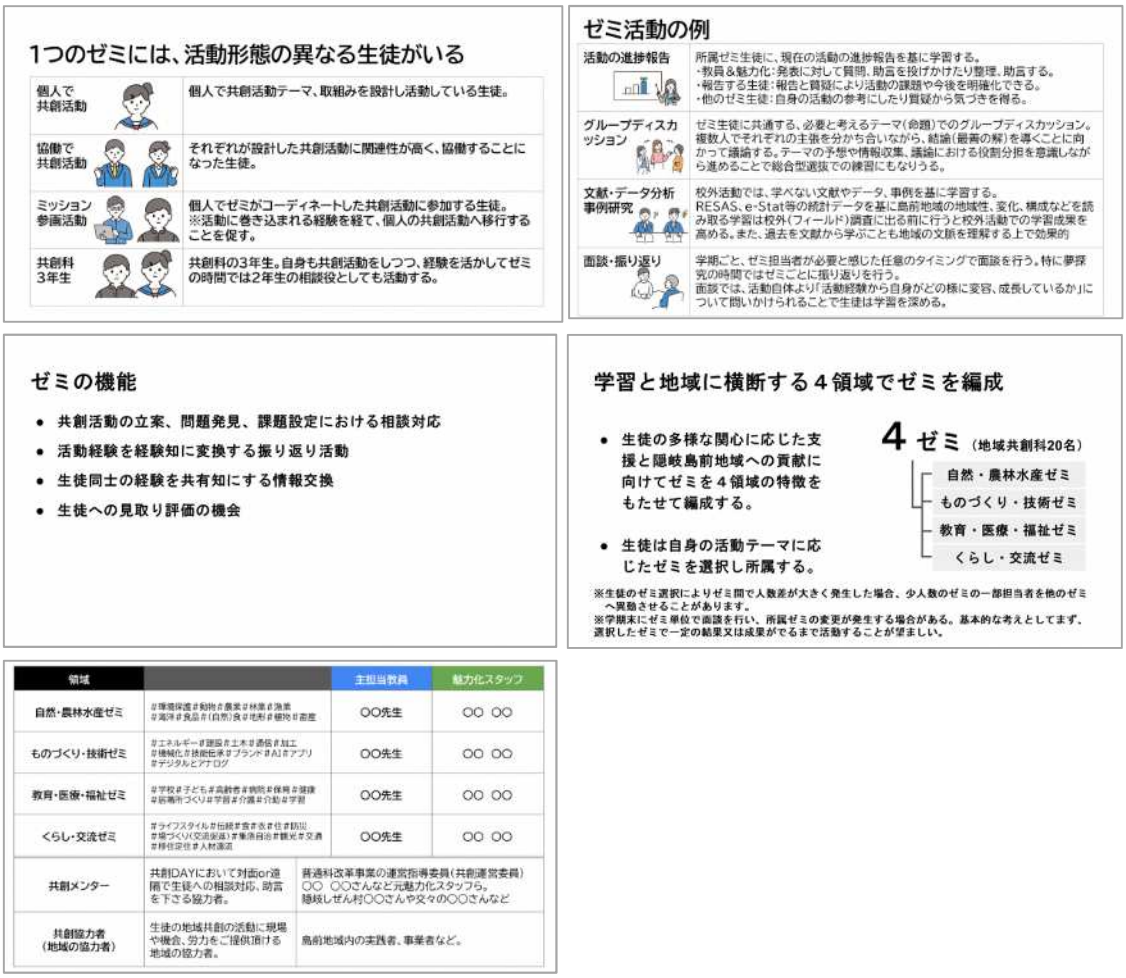
一方、本構想は「地球的視野で直面する事象や課題を俯瞰し、考えながら、解決に向けて足元から実践していけるグローカル人材の育成」を目指し、その目的を学校設定科目（地域未来共創・グローカル未来共創）により達成することを主眼としている。従って、生徒の日常生活の場である隠岐島前地域で、実際に現場で実践、協働、共創関係を結べるテーマを研究課題として設定することで、より真正性のある学びを実現できると考える。

真正性のある学び（解決したい地域課題）の領域（テーマ）設定は、隠岐島前地域への社会貢献・社会的インパクトと同時に地域共創科のスローガンを実現するために必要な要素であり、領域（テーマ）を設定することで生徒同士の学び合い、経験の承継を生むことも期待できる。

生徒は、日常生活の中で自らの興味・関心・特技と、直面する地域課題とを整理しながら、様々な領域（テーマ）を設定することが想定されるが、過去の「スーパーグローバルハイスクール事業」「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」等における「総合的な学習（探究）の時間」での設定課題から、大きく次の4つの領域に整理することができる。

大まかな領域	関連する領域
自然・農林水産に関すること	環境保護、動物、農業、林業、漁業、海洋、食品、（自然）食、地形、植物、畜産　等
ものづくり・技術に関すること	エネルギー、建設、運送、土木、通信、加工、機械化、技能伝承、デジタルとアナログ、ブランド、AI、アプリ　等
教育・医療・福祉に関すること	学校、子ども、高齢者、病院、保育、居場所づくり、学習、健康、ボランティア、介護、介助　等
くらし・交流に関すること	ライフスタイル、伝統、食、衣、住、場づくり(交流促進)、集落自治、観光、防災、交通、移住定住、人材還流　等

この4つの領域を、探究の小集団（ゼミ）として設置し、生徒は自らが設定した研究領域（テーマ）と関連が深いゼミに所属することで、多様で個性的な研究課題に対し、生徒の活動状況の細かな見取りと活動支援や効果的な振り返り等、大人が効果的・効率的に伴走・支援することが期待できる。また、生徒が学年を跨いで所属するゼミ内で互いの状況を共有し合うこと等により、生徒同士の学びの継承や探究手法の向上も期待でき、限られた人的資源による持続可能な学習スタイルとして期待できる。



ゼミについて説明する授業スライドの一部

３．成果

（１）校外探究実践活動に軸を置いた教材の開発

先述したプロジェクト基礎論に関する教材の他、「総合的な探究の時間」を含め、地域の方々との協働的な探究実践の効果的な推進を補助する自主教材の開発が進んだ。特に、普通教室等での一斉講義型授業とは異なり、生徒個々に異なる探究テーマ・内容及び実践進捗状況による校外学習を安全・安心に進めていくための工夫が施された。以下は ICT 教具ポータルに登録されている教材の一部を示す。

【役立つアイテム・ずっと使うもの】

・地域の方リスト

・共創 DAY で校外活動する時に必要なフォーム

・共創メンター一覧

・校外活動・実践の手引き

・電話・インタビュー・アンケートのやり方

【プロジェクト基礎論】

・探究ノートの作り方

・企画書作成のススメ

・タスクの緊急度／重要度の整理

・合意形成の仕方

・電話連絡のススメ

・効果的なプレゼンテーション

（２）評価ルーブリックの運用・検証

生徒の活動状況を評価するにあたり、評価の3つの観点別に規準、目指す資質・能力等について下表のとおり整理した。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
評価規準 （概ね満足できる状態）	地域の諸課題に対して多面的・総合的に分析・理解し、課題解決に必要な知識・技能を身に付けている	地域における現代的諸課題を発見し、実践から得られた客観的根拠に基づいて共創的に解決している	課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成や新たな創造的価値の提案に向け、主体的かつ協働的に取り組んでいる
資質・能力	課題設定力、課題に関する知識	批判的思考力、情報活用力、表現力	行動力、粘り強さ、省察力、学びの意欲、共創力、地域貢献意識、グローカル意識
評価の場面	主にレポート、行動、論述試験から評価	主にレポート、発表から評価	主に行動観察から評価

上表の整理に基づき、昨年度に策定した評価ルーブリックを下表のとおり運用した。

No.	場面	基準	行動評価基準	評価場面	評価の3観点	関連する資質・能力	関連するプロジェクト基礎論
1	プロジェクトに臨むモチベーションを高める	A	自分にとっての活動の意義（実現したいこと、身に付けたいこと）が明確になっている。	面談	学びに向かう姿勢	学びの意欲	
		B	活動が自分にとってどういう意義があるのか、今後自分の人生の中の何に繋がっていくのかを考えている。				
		C	「やらないといけないからやる」という消極的な姿勢でいる。				
2	ビジョンを作る	A	取り組みを通して、地域の誰が何によって喜ぶのかを明確に設定できている。	構想発表	思考・判断・表現	地域貢献意識	未来思考と現在思考
		B	取り組むことが、地域に役立つ部分があるのかを確認している。				Will・Can・Must のベン図
		C	取り組むことが、自分にしか意味のないことになっている。				企画書の作成
3	テーマを決める	A	今までの経験の中で、よかったことだけでなく驚きや怒りなどで心が動かされたことからも自分の興味があることを探している。	面談 構想発表	思考・判断・表現	省察力	
		B	今までの経験を振り返り、よかったこと、好きなことから自分の興味歩があることを探している。				
		C	自分を振り返ることなく、思い入れのないテーマを設定している。				
4	関わる分野について詳しく知る	A	テーマに関する地域の現状について、複数の立場の情報を比較して理解している。	論述試験	知識・技能	批判的思考力	
		B	テーマに関する地域の現状について、リアルな情報をもとに理解している。				

		C	テーマに関する地域の現状について、リアルな情報を収集できていない。				
5	プロジェクトを具体化する	A	興味のあることについて、いろいろな側面から検討し地域の現状も把握した上で、具体的な目標と目標達成の方法が考えられている。	論述試験 構想発表	思考・判断・表現	情報活用力	
		B	興味のあることについて、世の中で話題になっていることや少し専門的な議論に触れ、いろいろな側面から検討して活動内容を決めている。				
		C	興味のあることを見つけても、やりたいことが漠然としていたり、具体的すぎたりしてプロジェクトに取りかかることができない。				
6	企画を立てる	A	フィールドワークや実験などで本物に触れ、自分の足で十分に情報を集めて活動内容を決めている。	構想発表	知識・技能	行動力 情報活用力	インタビュー、アンケート
		B	フィールドワークや実験などで本物に触れるようにし、そこで得た自分自身のリアルな感覚をもとに考え、活動を進めている。				
		C	資料からの情報に頼り、リアルなものに十分に触れることができていない。				
7	記録を残す	A	活動記録の内容が充実していて、その記録を活用することができている。	ノート	思考・判断・表現	情報活用力	探究ノート
		B	毎回の活動記録を、後で見返してわかるように残すことができている。				
		C	毎回の活動記録が残せていない。				
8	企画を実現する	A	やるべきことを具体的に整理し、ゴールから逆算して無理のないスケジュールで進められている。	活動報告 行動観察	知識・技能	行動力	スケジュール/タスク管理
		B	まずはいろいろな方法で多くの情報を入れ、次にやるべきことを見つけることから始めている。				
		C	はじめによく考えたり計画したりしようとするあまり、延々と話し込んだり考え込んだりしてしまい、一向に活動を進められていない。				緊急度／重要度マトリクス
9	進捗を確認する	A	現在の進み具合や方向性を確認した上で、活動をさらに飛躍させるような仕掛けを加えることができている。	活動報告 行動観察	思考・判断・表現	粘り強さ	スケジュール/タスク管理
		B	ゴールに対する現在の進み具合や方向性を確認する時間をとり、取り組み方を柔軟に変更できている。				
		C	ゴールと異なる方向に進んでいたり、停滞しているがその状況に気づいていない、または気づいただけで行動を起こしていない。				
10	外部の人と一緒に取り組む	A	関わる人の考えを出し合った上で、興味や強みが活きる方法をお互いに考えて、活動に結びつけている。	協力者からのコメント	学びに向かう姿勢	対話力 共創力 受容力	
		B	関わる人や現場の意見・やり方を尊重し、信頼を積み上げることができている。				
		C	自分の考えややりたいことを推し進めようとして、関わる人に信頼されていない。				
11	障害を乗り越える	A	妥協せずに話し合いと実践を重ねて粘り強く解決している。	行動観察 論述試験	学びに向かう姿勢	粘り強さ	対話と議論の違い
		B	現状とゴールを俯瞰して、解決するための手立てを1つ試行している。				
		C	障害を理由に実践そのものを変更したり、妥協したりしている。				
12	整理する	A	集めた情報の特徴や目的に合わせて、効果的に整理・分析できる方法を探し、取り入れている。	ノート 論述試験	知識・技能	批判的思考力	
		B	集めてきた情報やそれについての気づきを書き出し、目に見える形にしている。				

		C	集めた情報を効果的に整理できず、有益な発見が得られていない。				
13	考察する	A	得た情報やそこからの発見について他の人と話し、自分の理解に偏りや誤りがないかを確認したり、他の視点・解釈を取り入れたりしている。	ノート 論述試験	思考・判断・表現	批判的思考力	
		B	意味がありそうな特徴や傾向をつかむことができている。				
		C	集めた情報や実践から何が言えるかをつかめていない。				
14	成果をまとめる	A	まとめの仕上がりを妥協せず、細部にこだわってまとめあげる。	発表 論文	思考・判断・表現	学びの意欲 表現力	レポートの書き方
		B	プロジェクトの中で最もみんなに知ってもらいたいことをメインメッセージとし、他の情報はそれを支えるための位置付けとしてまとめられている。				引用・参考文献のルール
		C	メインメッセージとそれを支える情報を、分かりやすい構成でまとめることができていない。				発表の仕方
15	プロジェクトを通した自分の成長を振り返る	A	うまくできたこと、できなかったこと、できるようになったことを踏まえて、学んだこと、成長したことを考えられている。	リフレクションシート	学びに向かう姿勢	省察力	
		B	プロジェクトでやってきたことを俯瞰して、うまくできたこと、できなかったこと、できるようになったことを考えられている。				
		C	プロジェクトを俯瞰してうまくできたこと、できなかったことなどを振り返ることができていない。				

年間学習計画と生徒の探究実践の段階に応じて、1学期はルーブリック No.1～7、2学期はルーブリック No.8～15 により学期評価を行い、3学期（学年末）はルーブリック No.1～15 により総括評価を行った。

評価は、評価ルーブリックと評価計画を事前に生徒に共有し、学期評価・学年末評価ともに、教職員による評価と生徒による自己評価とを面談により共有し、それぞれの評価根拠を説明・理解したうえで最終的な総括評価とした。この目的は、「生徒の自己評価（メタ認知）の精度を上げ、自己評価・他者評価を比較して他者（教員等伴走者・他生徒）評価の納得感を高めることを通じて、自己のよりよい成果・成長に向けて、自律的に進めていけるようにする」ことである。この結果、生徒の反応は次のようであり、概ね肯定的に受け止めていた。

・教員の評価については前向きにとらえる生徒が多く、応援することがができた。

・自己評価の方が低い傾向にあった。適切に現状把握ができるようになったのではないか。

・一方的に教員に評価されることに違和感があるという生徒もいた。定期的な面談が必要な生徒もいると思う。

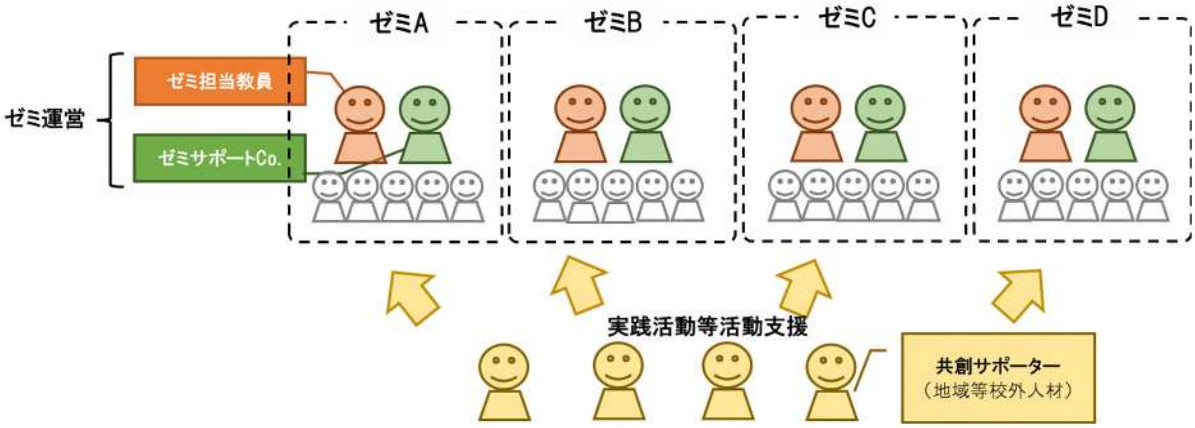
・現在地把握のための評価である、と生徒は理解している様子だった。

・「面談こわかった」と話す生徒もいたし、行動に対するフィードバックがあり、「ちゃんと見てくれている」と喜んでいる生徒もいた。

課題として、今回運用した評価ルーブリックは、探究の過程に基づく「実践行動・結果」主な評価要素として策定されたものであるが、この評価結果が育てたい資質・能力と、生徒個々が感じる自己の資質・能力の伸長と必ずしも強い相関があるとは言い難いことにある。学習計画を策定する教師側の「思い・願い」と、学習者である多様な生徒の「思い・実感」とが完全に一致することは困難であり、多様な学習集団を「公平・公正」に評価しようと努めるものの、それは評価者・学習者双方にとって完全に「妥当」であるかどうか、課題が残る。

（３） 伴走・支援体制

学校設定科目「地域未来共創」「グローカル未来共創」の推進・運営体制は5（7）ⅳ）で説明したとおりだが、生徒の実践的な探究活動を伴走・支援する体制として、下図の体制を整えた。



主な役割分担は下表のとおり。

ゼミ担当教員	ゼミの運営を担当し、学習活動の指導・評価をおこなう
ゼミサポートコーディネーター	ゼミ担当教員を助け、ゼミの運営をおこなう 共創サポーター等、校外の人的・物的資源との接続をおこなう
共創サポーター	それぞれの専門的知見から生徒の活動を支援する ・メンター：オンライン等により、生徒の壁打ち役となる ・地域協力者：対面で生徒の実践を支援・助言する

令和5年度は共創サポーターとして、メンター4名、地域協力者54名の協力を得ることができた。

（４） 学科選択

6月に実施した高校魅力化評価システムの集計結果から、地域共創科1期生は、第2学年全体スコアと比較して「主体性（自己肯定感・自己有用感、課題設定力、粘り強さ）」、「社会性（社会参画意識、グローカル意識）」が高いことが分かった。特に、隠岐島前で地域活動に取り組みたいと希望する島外出身生徒が多く、これ

までの普通科では実現できなかった、圧倒的実践時間がある新学科で自分の可能性を試してみたいという、積極的な姿勢の現れであると考えられる。

	育てたい資質・能力	全体	2年 地域共創科
主体性	【自己肯定感・自己有用感】 自分にはよいところがあると思う	75.3	82.6
	【課題設定力】 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	76.7	82.6
	【行動力】 自分で計画を立てて活動することができる	54.1	50.0
	【粘り強さ】 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	77.4	87.0
協働性	【受容力】 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.8	87.0
	【対話力】 相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.8	95.7
	【表現力】 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	56.0	55.0
	【共創力】 共同作業だと、自分の力が発揮できる	69.9	65.2
探究性	【学びの意欲】 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	76.7	82.6
	【情報活用能力】 情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	79.5	78.3
	【批判的思考力】 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	52.7	47.8
	【省察力】 自分を客観的に理解することができる	74.7	65.2
社会性	【地域貢献意識】 将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	77.4	78.3
	【社会参画意識】 地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	84.2	91.3
	【グローカル意識】 地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	81.1	95.0
	【持続可能意識】 住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	71.2	78.3

研究開発計画２：グローカル未来共創のカリキュラム開発

１．目標

地域未来共創を稼働させながら、そこで発生した問題点なども踏まえて、グローバル・コーディネーター等と協働し、令和４年度に確定させたカリキュラムをより具体的・効果的に修正する。

２．実践

（１）学校設定科目：グローカル未来共創の目標

様々な教科･科目や客観的事実に基づいた多面的な見方･考え方を働かせ、実践的･体験的な学習活動を行うことなどを通して、様々な地域の自然･文化･産業をはじめ社会の健全で持続的な発展を担う｢グローカル人材｣として必要な資質･能力を次の通り育成することを目指す。

① 様々な地域･社会の諸課題に対して多面的･総合的に分析し理解するとともに、課題解決に必要な知識･技能を身に付けるようにする。

② 様々な地域･社会における現代的諸課題を発見し、社会の形成者として実践から得られた客観的･科学的な根拠に基づいて他者と共創的に解決する力を養う。

③ 様々な地域･社会が抱える諸課題の解決を目指して自ら学び、健全で持続可能な社会の形成及び新たな創造的価値の提案に向け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

（２）グローカルの視点

本事業を通じて、本校が目指す「グローカル人材」の育成に向けて、次の視点を主眼に置き、カリキュラムの見直しを行った。

視点①：還元還流

世界の課題解決や価値創造の学びから、隠岐島前地域に還元できることを見出して実践する

視点②：実証実験

世界の課題解決や価値創造のために、隠岐島前地域で足元からできることを見出して実践する

（３）グローカルの視点を活かし、グローカル未来共創へ効果的に接続する探究プログラム

ｉ）海外研修旅行

以下の目的･日程により、第2学年全員を対象とした海外研修旅行を実施した。

① 目的

･隠岐島前地域の外に飛び出して、人の営みを通じた現地の自然･歴史･文化･産業･価値観等に触れることにより、島前地域やふるさとを見つめ直す機会とする。

･韓国を訪問し、現地の人々との交流や異文化との接触を体験することにより、「多様性」や｢協働性｣について新たな発見や感動を促す機会とする。

･世界の公用語である英語を用いたコミュニケーションを実践的に行う環境に身を置くことで、よりグローバルな視点で自己や世界を捉え直し、世界で活躍しようとする意欲を喚起する。

② 日程

11月12日(日)	
時間	行程
8:14	菱浦港出発【高速船】
10:17	境港着
13:20	米子空港着【貸し切りバス】
15:50	米子空港発【エアソウル　746 便】
17:20	仁川空港着
21:00	ホテル着【貸し切りバス】

11月13日(月)	
時間	行程
8:30	ホテル発【貸し切りバス】
	ソウル市内施設見学 ・景福宮 ・国立民俗博物館 ・国立中央博物館
14:00	班別ソウル市内異文化研修
20:30	ホテル集合

11月14日(火)	
時間	行程
8:10	ホテル発【貸し切りバス】
8:50	海城国際コンベンション高等学校着 ・生徒交流活動
14:00	ホームステイ準備
15:30	ホストファミリー対面 ・ホームステイ

11月15日(水)	
時間	行程
	ホテル集合
10:00	ホテル発【貸し切りバス】
10:50	仁川空港着
13:20	仁川空港発【エアソウル　745 便】
14:50	米子空港着
15:50	米子空港発【貸し切りバス】
16:20	旅館着

11月16 日(木)	
時間	行程
9:00	振り返り学習
12:00	旅館発【貸し切りバス】
12:20	境港着
14:25	境港発【フェリー】
17:27	菱浦港着

③ 内容

・ソウル市内施設見学

歴史と異文化理解を深めるための研修として、景福宮、民俗博物館、国立中央博物館を見学した。

李氏朝鮮時代の歴代国王の王宮である景福宮は、約 200 年の朝鮮時代の政治の中心地として長らく繁栄した場所であることから、その広大さと当時の建築技術の高さに圧倒されるとともに都会的な街の中に伝統的な建築物が共存している様子が印象的だった。

民俗博物館では、韓国人の一生や日常生活を知ることのできる様々な資料が展示されており、異文化とは言いつつも、日本と似たような文化もあり、隣国との関係の強さを感じることができた。

国立中央博物館は、韓国の古代～現代の歴史、韓国の文化史、世界の歴史についての展示があり、最新の技術を駆使して映し出される歴史的な資料・絵画・陶磁器などに韓国の歴史の奥深さを感じることができた。

民俗博物館見学の様子

・班別ソウル市内異文化研修

韓国の文化・ファッション・経済等を肌で感じることを目的に、事前にグループメンバーで行き先を決めて、目的地を探しながら異文化を体験した。言葉や交通の困難を克服しながらも、それぞれが韓国という国を肌で感じることができた。

市内観光の様子

・海城国際コンベンション高等学校生徒交流活動

午前は、マッチングしたペアが協力してハンディクラフトに挑戦した。悪戦苦闘しながらもコミュニケーションを交わしながら、うまく仕上げることができた。昼食は学食でそれぞれのパートナーとグループで摂った。あっという間に打ち解けたようで、食後に購買で買い物を楽しむ姿も見られた。

午後からは英語による自己紹介、それぞれの探究活動に関する質疑応答を行った。言葉や意図がなかなかうまく通じないこともあり、自分が言いたいことをどうやって伝えるのか、相手が何を言おうとしているのかを試行錯誤しながらも、互いに真剣に話を聞きながら、丁寧に答える姿が見られた。

対面でのやりとりこそが本当の学びになるのだと改めて感じ、生徒たちからは「もっと英語を勉強しておくべきだった」「韓国についてもっと調べておけばよかった」「韓国語がわかるようになりたい」という声がたくさんあがり、韓国語を少しずつ使っている様子も見られた。

現地校生との交流・発表の様子

・ホームステイ

ホストの皆さんに生徒をホテルに迎えにきていただき、大学見学やドラマや映画のロケ地や観光名所に連れて行ってもらったり、買い物や外食を楽しんだり、伝統衣装を着て楽しんだり、家庭でゲームや会話を楽しんだりして、それぞれがホストファミリーのみなさんと過ごすなかで、韓国の生活・文化を体験した・

ホストファミリーとの食事の様子

民族衣装を体験する様子

④ 成果

この度の海外研修旅行を通して、参加生徒は広い視野で様々な気付きを得ることができた。特に文化的共通性や相違性に関する気づきの声が多く、研修旅行の目的の一つである、「多様性」や「協働性」について新たな発見や感動を促す機会となった。また、この研修旅行での気付きや学びを今後どう活かすかという問いに対し、

・韓国のフードロスは深刻であるため、調べたい。

・もっといろんな国に行って文化に触れたい。

・自分の目で実際に見てみることはとても大切。オンラインなどでは学ぶことのできない五感からの気づきがある。そのため、今後もできるだけ、直接その場に行くようにしたい。

・今の自分には何かに対しての力の入れ方や積極性が足りないと感じた。

・ホストファミリーに韓国語を勉強しなさいよと言われたので、次に会う時には韓国語で話せるようにしたい。そして、日本のことをもっと知って、話せるようにしたい。

・韓国では優しく接してくれる人がたくさんいたから、日本に外国からの観光客が来た時には親切に対応したい。

・高校生との対話で得た夢探究のフィードバックで新たな疑問が湧いたので、そこからさらなる探究に繋げていきたい。

といった意見が見られ、よりグローバルな視点で自己や世界を捉え直し、世界で活躍しようとする意欲の喚起に繋がったと思われる。

ⅱ） グローバル探究

以下の目的・日程により、対象者を公募・選定した海外探究研修を実施した。

① 目的

・海外の人々との交流や異文化に触れることで新たな発見をすると同時に、自国や郷土の魅力、地域の課題などを改めて見つめ直す

・探究学習の過程でグローカル人材としての資質・能力を高める

② 全体日程

・5 月～7 月：隠岐島前地域での事前探究活動

・7 月：ブータン渡航 フィールドツアー（7 月 24 日(月)～8 月 1 日(火)）

・8 月～9 月：隠岐島前地域での継続的な実践活動

・10 月以降 :最終成果発表

③ 内容

・隠岐島前地域での事前探究活動

「島前地域」・「ブータン」・「GNH（国民総幸福量）」をキーワードに、探究テーマを模索することから活動を開始した。まず、生徒がそれぞれ海士町の課題や気になることを洗い出し、人手不足や、特別支援・専門医療が島に無いなど、教育や医療の観点を中心に様々な意見が挙がった。これを踏まえ、仮の探究テーマを「島のバランスをどのように維持しているのか」と設定した。その理由は、

・島外の人が多く来島しているにもかかわらず、便利なコンビニやショッピングセンターなどは作られていないから。

・港には自動販売機もないことからバランスをどのように維持しているのか、関心を持ったから。

である。その後、探究テーマを深堀するための問い設定を行い、オニギリやアカモクの味噌汁など、海士町産の食材を使いながら日本料理を作ることを決定した。さらに、海士副町長と座談会を実施し、海士町の特徴を把握することに努めた。

その後、ブータンの GNH のなかでも「Community Vitality」に注目し、「地域内で人と人との距離が近いことは幸せにつながるのか？」という問いをテーマとした。

設定テーマについての背景を把握するために、実際に島前地域で生活する方々に街頭インタビューを実施した。また、比較・国際教育学を専門としており、ブータンに精通している平山雄大 氏にもオンラインで聞き取り調査を実施した。

これらの活動をとおして、海士町の人々が島内の人や来島する人とどのような意識で接し、繋がっているのかを把握することができ、ブータンの特徴についても一層理解することができた。

課題の洗い出し場面

料理内容の検討場面

・ブータン渡航 フィールドツアー

事前探究活動の実践結果を資料としてまとめ、次の日程で、ブータンフィールドツアーを実施した。ブータンの訪問先の高校では、これまでの実践結果を中間発表として英語で発表した。また、ブータン滞在中も、現地のフィールド調査、訪問先の高校生とワークショップ等を実施した。

日程	宿泊地	予定
7/24 （月）	機内泊	・15:15 菱浦発→17:55 七類着（フェリー） ・米子空港内にて夕食 ・20:20 米子発→21:45 羽田着（NH-390 便） ・24:05 羽田発→04:35 バンコク着（NH-849 便）
7/25 （火）	Hotel Taktsang ティンプー市内	・7:30 バンコク発→11:00 パロ（ブータン）着（KB-131 便） ・パロ空港からティンプー市内へ移動
7/26 （水）	Guest House チュカ	・ブータン教育省表敬訪問（9:00-11:00） ・ティンプーよりチュカへ移動 ・Chukha Central School にてワークショップ準備
7/27 （木）	Guest House チュカ	・Chukha Central School にて探究成果発表と交流
7/28 （金）	Dudjum Paksum Hotel チュカ県ゲドゥ市内	・Chukha Central School にて交流 ・チュカよりゲドゥ市内へ移動
7/29 （土）	Dudjum Paksum Hotel チュカ県ゲドゥ市内	・ゲドゥ市内より Gedu Higher Secondary School へ移動 ・Gedu Higher Secondary School にて交流 ・フィールドワーク
7/30 （日）	パロ市内	・ゲドゥ市内より Pakshika Central School へ移動 ・Pakshika Central School にて交流 ・フィールドワーク ・ゲドゥ市内よりパロへ移動
7/31 （月）	機内泊	・10:35 パロ発→16:05 バンコク着（B3-700 便） ・21:35 バンコク発→05:50 羽田着（NH-850 便）
8/1 （火）	_	・21:35 バンコク発→05:50 羽田着（NH-850 便） ・羽田空港 解散

日本料理を調理する場面

実践発表の場面

首都フィールド調査の場面

・隠岐島前地域での継続的な実践活動

ブータンフィールドツアー後も探究テーマに関する協議を重ね、海士町に在住している大人にコミュニティに関する困りごとを聞いたりブータン人との交流のあり方について相談したりして、考察を深めた。これら探究実・践活動で得た成果を資料としてまとめた。また、ブータンの様子を理解してもらい、ブータンの人とのつながりを意識することを目的として隠岐島前地域の人々に対してブータンのミルクティー「ンガシャ」を提供したり、ブータンの高校生宛にメッセージを送るイベントを実施したりした。

・最終成果発表

資料としてまとめた成果を、本校の学園祭で高校生に、隠岐島前地域３町村の中学生にそれぞれ発表した。また隠岐國学習センターで開催された芸術祭でも成果発表を行った。

隠岐の國学習センターでの発表の場面

④ 成果

これらグローバル探究への参加やブータンへの渡航をとおし、参加生徒たちに視野の広がりや、世界に対する好奇心の向上が見られた。以下は、参加生徒の感想。

・「帰国後、当たり前に感じていた地元の風景が、国によって全く異なることに改めて驚いた。道路の舗装や運転のマナー、公共施設や学校の設備など。どちらが良い悪いという話ではなく、色々な世界があるのだと身をもって感じたし、もっと海外のことを知りたい。」

・「ブータンの高校生の学びに対する姿勢に驚いた。目的を持ち、主体的に学ぶブータンの生徒と出会ったことが、自分自身が日本で高校へ進学し、学んでいる理由や意義を改めて考え直すきっかけになった。

・「ブータンで暮らす方々にインタビューすることで、遠い地のブータンの方々も日本に住む自分たちと同じように悩んだり、喜んだりしているのだという事実を知ることが出来た。想像も及ばない海外の世界が、ぐっと身近に迫った機会になった」

（４）グローカル未来共創カリキュラム

（2）であげたグローカルの視点により、年間指導計画を次表のように改善・策定した。

<table>
<tr><th rowspan="2">月</th><th rowspan="2">週</th><th>学習項目</th><th colspan="3">学習内容</th><th rowspan="2">到達目標
（ルーブリック）</th><th rowspan="2">ゼミ活動指標</th><th rowspan="2">探究の指標</th></tr>
<tr><th>（単元）</th><th>1限
2限</th><th>3限
4限</th><th>5限
6限</th></tr>
<tr><td rowspan="3">4</td><td>2</td><td>オリエンテーション
2年生にゼミ紹介</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="12">6～11</td><td rowspan="14"></td><td rowspan="14"></td></tr>
<tr><td>3</td><td rowspan="11">グローカルプロジェクト</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">5</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">6</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">7</td><td>1</td><td>レポート課題
リフレクション（自分）・面談</td><td>期末試験</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>3年生最終発表</td><td colspan="3">最終発表、ディスカッション</td><td>12～15</td></tr>
<tr><td>3</td><td>プロフェッショナル演習</td><td>論文の書き方</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td>3</td><td rowspan="13">論文執筆・後輩への伴走</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="13">8、9、
11～15</td><td rowspan="13">後輩に伴走する</td><td rowspan="13">論文に表現する</td></tr>
<tr><td rowspan="4">9</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">10</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="4">11</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td>レポート課題</td><td>期末試験</td><td></td><td></td></tr>
</table>

12	1	リフレクション（自分）・面談						
	2	2 年生中間発表、論文提出						
	3	協力者お礼挨拶、後輩対話						
1	2	個別応用実践						
	3							
	4							
2	1							
	2							
	3							
	4							
3	1							

研究開発計画３：成果目標、活動指標の検証

１．目標

本事業の申請・計画時に設定した成果目標・活動指標について、適宜検証し、取り組み内容の改善に努める。

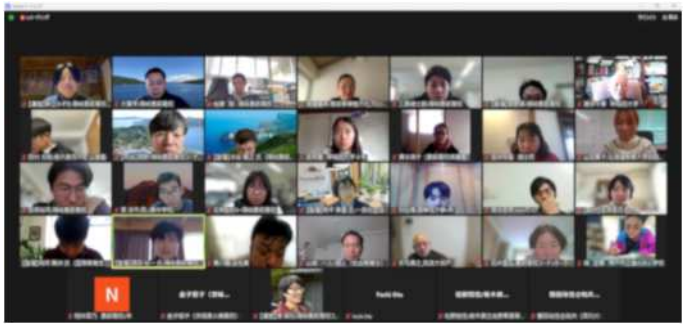
２．結果

（１）令和５年度の目標設定値と達成状況

本構想において実現する成果目標（アウトカム）	R5 目標	達成状況
卒業後のグローカルな進路選択者(スーパーグローバルユニバーシティや地域協働系学部への進学割合)	15%	18.6%(11 名)
卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数(関係人口数)	15 人	22 人
地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）	**R5 目標**	**達成状況**
主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が 75%以上	76%	主体性:68.3% **協働性:79.7%** 探究性:74.3% 社会性:72.6%
主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が 80%以上	80%	主体性:79.0% **協働性:81.0%** 探究性:75.9% 社会性:75.2%
安心･安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が 90%以上	88%	**主体性:94.3%** **協働性:92.6%** **探究性:89.3%** 社会性:86.0%
学び共創フォーラムへの参加者数	75 人	9月:76人 3月:45人

成果目標（アウトカム）について、今年度卒業生は地域共創科設置以前の入学生であったが、卒業後のグローカルな進路選択者数及び地域に関わろうとする人数共に、目標値を上回ることができた。「地域共創」に関する全校的な取り組みの成果であると評価できる。

活動指標（アウトプット）については、「自己能力意識」「行動実績」ともに協働性については目標値を上回ることが出来たが、主体性及び社会性は目標値に一歩及ばなかった。しかし、高い目標値に対し、かけ離れて低い数値とはなっておらず、ほぼ目標を達成できたといえる。



学び共創フォーラム（３月）の様子

（２）研究開発に係る評価

ｉ）　生徒および教職員含む大人へのアンケート調査

研究開発における検証・評価については、島根県教育委員会と三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティングが協働で開発・実施する「高校魅力化評価システム」を活用する。今年度も１回目調査として「①学習活動（明示的なカリキュラム）」、「②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）」、「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して６月に、第２回調査として「③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）」、「④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）」に関して、調査対象を生徒に限定し、３年生は１２月に、１・２年生は２月に実施した。

１回目調査結果の概略　※関連資料は p.43～45

			主体性	協働性	探究性	社会性
高校としての活動指標	③生徒の自己認識	R2 年度	64.6 %	78.0 %	63.1 %	69.0 %
		R3 年度	69.2 %	79.6 %	65.5 %	73.7 %
		R4 年度	69.0 %	76.4 %	73.0 %	69.1 %
		R5 年度	**68.3%**	**79.7%**	**74.3%**	**72.6%**
		他地域	**69.8%**	**79.7%**	**70.9%**	**64.3%**
	④行動実績	R2 年度	76.4 %	75.0 %	67.5 %	69.2 %
		R3 年度	78.8 %	79.9 %	69.8 %	70.7 %
		R4 年度	79.3 %	78.0 %	74.0 %	76.3 %
		R5 年度	**79.0%**	**81.0%**	**75.9%**	**75.2%**
		他地域	**71.0%**	**72.2%**	**66.7%**	**31.5%**

「③生徒の自己認識」については、すべての項目で 76%以上となること目指していたが、「協働性」では上回ったものの、「主体性」、「探究性」と「社会性」では目標に及ばなかった。しかし、他地域との比較では「社会性」の数値が高い。

目標値を上回った「協働性」の個別項目を見てみると、「自分とは異なる意見や価値を尊重することができる」、「相手の意見を丁寧に聞くことが出来る」の肯定的回答がともに 91.7%と、高い数値が出た一方、「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「友達の前で自分の意見を発表することは得意だ」は昨年度から大きくスコアが下がった。

数値が 70%に到達しなかった「主体性」の個別項目を見てみると、「現状を分析し、目的や課題を明らかにすることが出来る（76.6%）」、「うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む（77.2%）」は昨年度同様に目標を超え、課題設定力や粘り強さは高い成果を出すことが出来たが、「私は自分自身に満足している（46.9%）」も昨年度同様に低い結果となった。

「探究性」に関わる自己認識は、「学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている（83.4%）」、「一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする（87.6%）」は高い結果となり、学びの意欲の高まりを伺うことが出来るが、「複雑な問題を順序だ

てて考えることが得意だ（52.4%）」と、批判的思考力・論理的思考力に課題が残る。

「社会性」に関わる自己認識は、目標値に達しなかったものの、県内他校に比べて肯定的回答割合が高い。特にグローカル意識を聞く項目の「地域の課題と世界の課題は関連していると思う（81.1%）」、「将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい（86.2%）」は昨年度同様に高い結果となった。また社会参画意識を聞く項目の「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある（84.1%）」、「１８歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う（89.0%）」、地域貢献意識を聞く項目の「地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい（79.3%）」、「将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある（77.9%）」も高い結果となったが、「私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない（60.7%）」「将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい（60.0%）」は、昨年度同様に低い結果となった。

「④生徒の行動実績」については、「協働性」で目標値を上回った。「主体性」においては「授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞いたりした（85.5%）」が、「探究性」においては「授業の内容について、なぜそうなるのかと疑問を持って、自分で考えたり調べたりした（78.6%）」が、「社会性」においては「地域社会などでボランティア活動に参加した（73.1%）」が昨年度と比較して５ポイント以上上昇している。

ⅱ）令和５年度１回目調査・２回目調査結果の比較　※関連資料はp.46～47

「③生徒の自己認識」については、成果目標（アウトカム）で目標値を達成した３年生及び今年度本格稼働した２年地域共創科生徒が「主体性」・「協働性」と「探究性」に関わる自己認識で大きく伸びた。特に主体性の「行動力」に関する、「自分で計画を立てて活動することができる」の肯定的回答率が、１回目比 21.4%（２年地域共創科）、27.3%（３年生）上昇した。また、３年生は主体性に関わる自己認識は「自己肯定感・自己有用感」「課題設定力」「行動力」「粘り強さ」のすべての指標において肯定的回答割合が１回目調査を上回った。

「④生徒の行動実績」については、２年地域共創科生の肯定的回答割合上昇が目立つ。

これらのことから、地域共創科の実働による効果を明確に確認することが出来たが、普通科・地域共創科の学科間の格差が浮き彫りになった。

本校としては、地域共創科による普通科改革実践成果を従来の普通科にも波及させ、現在の取り組みが将来的に普通科の「当たり前」になることを目指して取り組んでいるが、その実現や生徒への働きかけ等について、更に研究・実践する必要がある。

（３）グローカル志向の指標

下表は、公益財団法人日本英語検定協会主催の実用英語技能検定合格状況をまとめたものである。過去５年間を比較すると、上位級の技能検定へ挑戦する生徒数及び合格者数が増加しており、グローバル・コミュニケーションへの関心の高まりがうかがえる。

実用英語検定合格者数推移

	令和５年度				令和４年度				令和３年度				令和２年度				令和元年度			
	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計	１回	２回	３回	合計
２級	8	4	2	14	7	1	2	10	6	1	0	7	2	4	5	11	6		1	7
準２級	3	1	4	8	6	3	10	19	7	2	5	14	4	4	8	16	1	1	4	6
３級	5	0	2	7	4		2	6	0	3	0	3	0	1	0	1	0		3	3

（４）運営指導委員会記録

第１回　運営指導委員会

ⅰ）内容

日時：　令和５年１０月１２日（木）

次第：　１．開会行事

① 校長挨拶

② 委員紹介

③ 事務連絡

２．議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

①　令和５年度研究開発の概要

②　令和５年度研究計画

③　令和５年度実施状況

④ その他

３．閉会行事

ⅱ）運営指導委員からの主な指導・助言

①ルーブリック評価の観点について

・評価項目に余白を２つくらい用意して、一学期に見えてきた個別の強みや課題を二学期の評価項目として設定し、一緒に伸ばしていくのはありかもしれない。

・設定されている評価項目が全て行動ベースなのが気になる。この学科で学んだ結果身につく「スキルセット」としてはいいかもしれないが、「この学科を出た後にどうなるのか（どのような力が身についたか？）」で再設定してもいいかもしれない。

②ゼミを効果的に機能させることについて

・学問的な観点を入れていくのであれば思考の「型」があった方がいい。

・「地域に喜ばれるレベル」というのがポイントではないか？「地域に求められること」や「地域にどう選ばれるのか」を共有したり、考えたりする。

③島内生に選ばれない共創科について

・全国の最先端をいく島前高校の新しい学科で、なぜ改めて「地域に喜ばれる」を設定するのか。

・なぜ学科の特徴が伝わらないのか、世の中に「こと」を起こせる人じゃないと地域共創科に行ってはいけない、という誤解があるのか？

・地域社会に求められることと同時に、自分がどうなりたいかを考えることが大切。

④自己肯定感が低いことについて

・自己理解・自己成長（人間的な魅力）が認識でき、自分を受け入れることが大切。

・フィードバック（やったことに対する反応）が足りていないのではないか。フィードバックを経て自己認識が高まり、自己肯定感が上がる。

第２回　運営指導委員会

ｉ）内容

日時：　令和６年１月２４日（水）

次第：　１．開会行事

（１）校長挨拶

（２）事務連絡

２．議事・協議

隠岐島前高等学校事業説明

（１）令和５年度実施状況

（２）その他

３．閉会行事

ⅱ）運営指導委員からの主な指導・助言

①生徒中間発表について

・企業まであと一歩の取り組みがあり、卒業後も地域との関係が途絶えない良い事例。

・設定課題の多様さや、探究活動に生徒が迷走する姿も見られ、大人の伴走の難しさを感じる。

・生徒自身が手ごたえを感じる活動を、多くの生徒に体験してもらいたい。

・活動と思考の収束と拡散の過程を大事にしてほしい。

・他の学校では、生徒が頭の中だけで考え、そこから動き出せない姿があるとよく聞くが、島前高校はフットワークの軽さを感じる。行動してみて考え、失敗を次の一歩に踏み出す過程は評価できる。

②今後の課題について

・伴走を支援する人的リソースの追加・確保をどうしていくか。協力したいという思いはあっても時間が空いていないまたは合わない事が多いのではないか。

・生徒一人ひとりの活動の継承、アーカイブ化をどのように進めていくか。

・一人ひとりが、自分のプロジェクトを持っている主体（生徒）に対して、教員はどのように対応していくか。また、教員の変化はあるか。

・探究がなぜ必要なのかを生徒に誤解なく理解させる必要がある。地域探究は地域を学ぶためではなく、地域を使って課題解決について学ぶためにあると考える。考え続ける力の育成が大切。

研究開発計画４：振り返りと改善

１．目標

地域共創科の運営にあたり、校外の地域リソースを活用しながら、より効率的・効果的な指導・伴走体制の研究を深め、普通科や他校の探究学習への成果還元・普及を目指す。

２．内容

毎週の定例会議の中で議論を深めながら、専門家にも適宜入っていただく中で、以下のようにまとめている。来年度は、運用していく中で、適宜振り返りを行い、改善していきたい。

（１）普通科改革の先に目指す姿と現状分析

地域で学ぶ意義：島は「社会の縮図」、地域共創を通して、島に戻っても、他地域・海外に羽ばたいても活躍できるグローカル人材へ

① 学び改革

社会・世界の縮図である「島」をフィールドに
「地域共創と学びの共創を行う過程で、**自由に学べる未来**」

【現状と問題】
現状：モチベーションや大人の期待（圧）に左右され、勝手に限界をつくってしまっている
問題：生徒・大人の「高校生だから」という無意識な天井をつくってしまっている

具体的な手立て
生徒を子ども扱いしない

② 伴走改革

生徒（学習者）の可能性を最大限に発揮するために、
「校内の伴走力を高めつつ、**校外のリソースから学ぶことが当たり前になっている未来**」

具体的な手立て
成果発表会を社会に開く

【現状と問題】
現状：「生徒のために」と「自前」でやってあげてしまいたくなってしまう伴走
問題：「生徒のために」誰と何を学ぶのが最適かを考えられていない

具体的な手立て
本校の取り組みに関する校外機関への周知（広報/営業）

③ 進路改革

地域共創で身につけた資質・能力と学習ログをもとに、
「**就職先や進学先からスカウトされる未来**」

【現状と問題】
現状：担任が伴走し、生徒が進路実現に向かう努力（労力）をしてつかみ取る進路
問題：学級担任１人 対 学科生徒 20～30 人の伴走・指導体制
→生徒自ら就職先・進学先の選択・獲得の当たり前化へ

（２）改善

①地域共創科のビジョン策定や運営、適切な学科選択生に学校をあげて運営していける体制構築

・学校経営目標への位置付けや学科長・学科主任などの体制づくり

・地域共創科の説明責任をはっきり持った学科選択・中学校への説明

②生徒の可能性を最大限に引き出し、伴走の幅を拡げる外部人材・外部リソースの活用拡大

・外部講師の登用や連携機関（企業・大学）の開拓

・構想発表会を外部向けに行う/発信する

・外部発表会への参加

③進路改革を進めるための、キャリアと連動した体制と発表会の位置付け見直し

・学習センターと連動したキャリアセンターの設置

・外部企業や大学を招いた中間発表会・成果発表会の実施

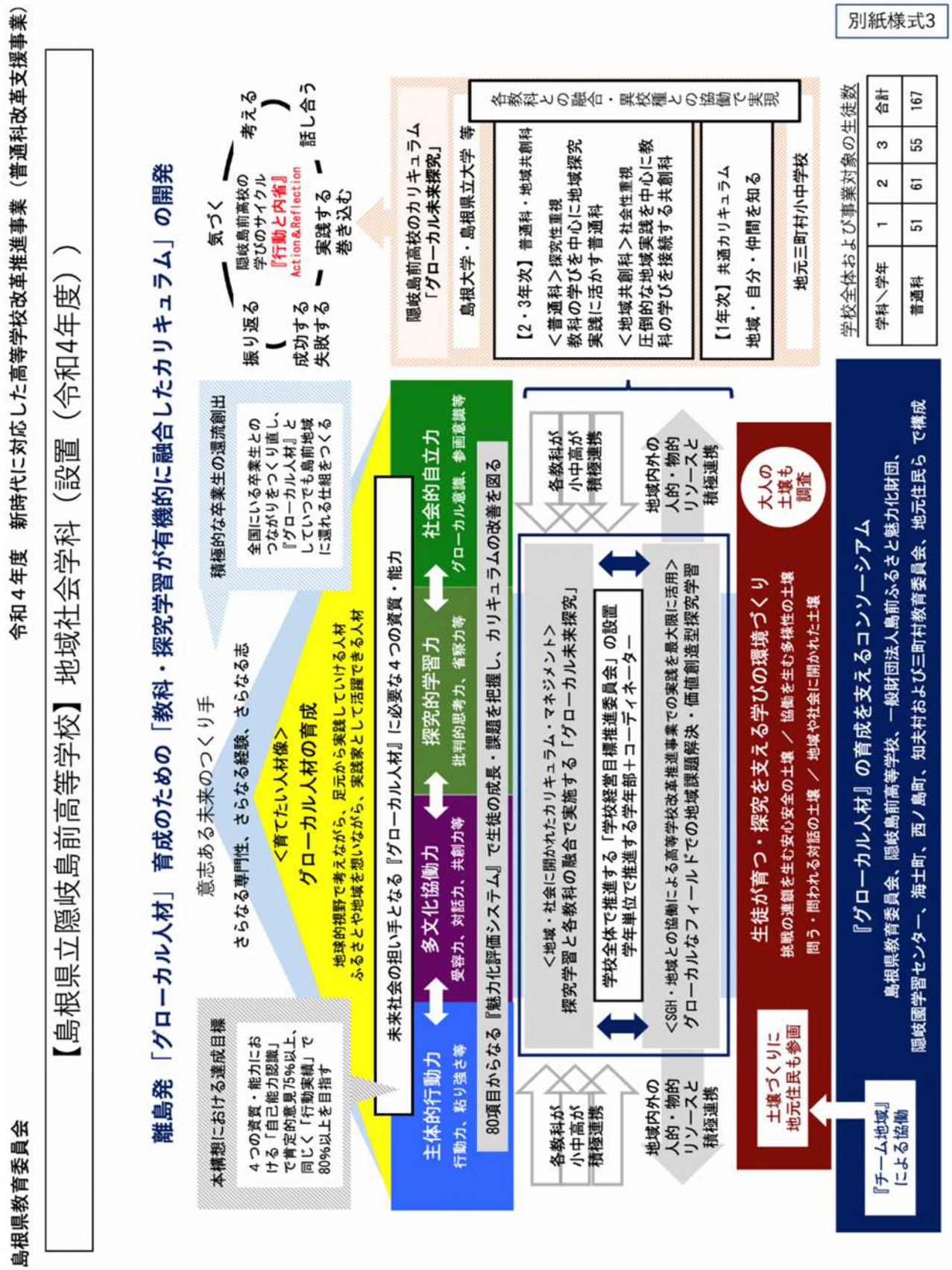
・海外大学の開拓や国内大学の「地域共創科指定校」開拓

④資金の獲得

・プロジェクトベースの外部資金獲得や支援金などの開拓

資料

（１）構想概念図


島根県教育委員会
令和４年度　新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）
別紙様式3
【島根県立隠岐島前高等学校】地域社会学科（設置（令和4年度））
離島発「グローカル人材」育成のための「教科・探究学習が有機的に融合したカリキュラム」の開発
本構想における達成目標
４つの資質・能力における「自己能力認識」で肯定的意見75%以上、同じく「行動実績」で80%以上を目指す
意志ある未来のつくり手
さらなる専門性、さらなる経験、さらなる志
＜育てたい人材像＞
グローカル人材の育成
地球的視野で考えながら、足元から実践していける人材
ふるさとや地域を想いながら、実践家として活躍できる人材
積極的な卒業生の還流創出
全国にいる卒業生とのつながりをつくり直し、『グローカル人材』としていつでも島前地域に還れる仕組をつくる
未来社会の担い手となる『グローカル人材』に必要な４つの資質・能力
主体的行動力
行動力、粘り強さ等
多文化協働力
受容力、対話力、共創力等
探究的学習力
批判的思考力、省察力等
社会的自立力
グローカル意識、参画意識等
80項目からなる『魅力化評価システム』で生徒の成長・課題を把握し、カリキュラムの改善を図る
気づく
考える
話し合う
実践する
巻き込む
振り返る
成功する
失敗する
隠岐島前高校の学びのサイクル
『行動と内省』
Action&Reflection
隠岐島前高校のカリキュラム
「グローカル未来探究」
島根大学・島根県立大学 等
各教科との融合・異校種との協働で実現
【2・3年次】普通科・地域共創科
＜普通科＞探究性重視
教科の学びを中心に地域探究実践に活かす普通科
＜地域共創科＞社会性重視
圧倒的な地域実践を中心に教科の学びを接続する共創科
【1年次】共通カリキュラム
地域・自分・仲間を知る
地元三町村小中学校
学校全体および事業対象の生徒数
学科＼学年 1 2 3 合計
普通科 51 61 55 167
各教科が小中高が積極連携
地域内外の人的・物的リソースと積極連携
＜地域・社会に開かれたカリキュラム・マネジメント＞
探究学習と各教科の融合で実施する「グローカル未来探究」
学校全体で推進する「学校経営目標推進委員会」の設置
学年単位で推進する学年部＋コーディネーター
＜SGH・地域との協働による高等学校改革推進事業での実践を最大限に活用＞
グローカルなフィールドでの地域課題解決・価値創造型探究学習
生徒が育つ・探究を支える学びの環境づくり
挑戦の連鎖を生む安心安全の土壌 ／ 協働を生む多様性の土壌
問う・問われる対話の土壌 ／ 地域や社会に開かれた土壌
大人の土壌も調査
土壌づくりに地元住民も参画
『グローカル人材』の育成を支えるコンソーシアム
島根県教育委員会、隠岐島前高等学校、一般財団法人島前ふるさと魅力化財団、
隠岐國学習センター、海士町、西ノ島町、知夫村および三町村教育委員会、地元住民ら で構成
『チーム地域』による協働

（2）目標設定

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値（ 年度）
a	（成果目標） 卒業後のグローカルな進路選択者（スーパーグローバルユニバーシティや海外への進学、地域協働系学部への進学の割合）					単位： %
	本事業対象生徒：		15	20	25	25
	本事業対象生徒以外：					
	目標設定の考え方：グローカルなビジョンを描き、グローカルな進路を選択する生徒比率					
b	（成果目標） 卒業後も隠岐島前地域に積極的に関わろうとする生徒数（関係人口・還流人口数）					単位： 人
	本事業対象生徒：		15	20	30	30
	本事業対象生徒以外：	50	70	140	150	150	150
	目標設定の考え方：隠岐島前地域や日本全国で開催される隠岐島前地域の共創に係るワークショップやプログラムへの参加卒業生数					

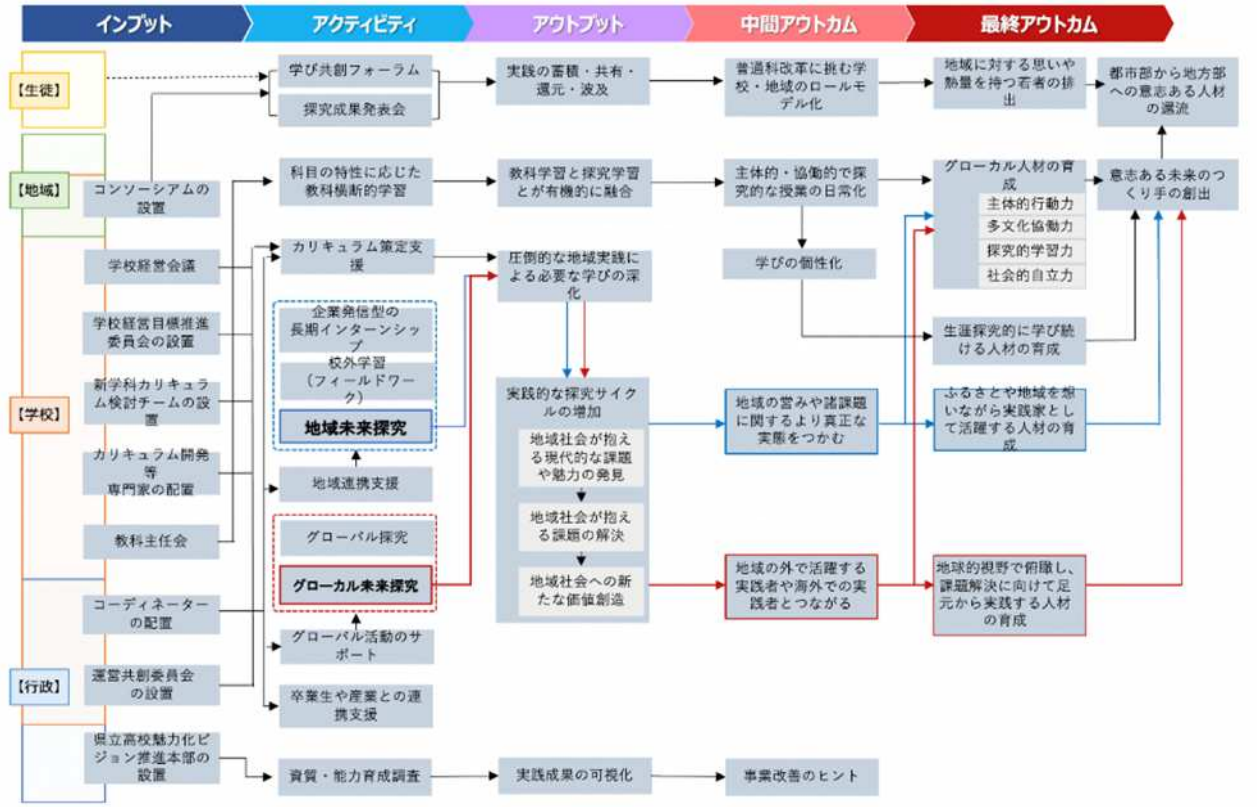
2．地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	目標値（ 年度）
a	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 主体性、協働性、探究性、社会性における「自己能力認識」で肯定的意見が75％以上					単位：％
	72	74	76	78	80	80
	目標設定の考え方：「高校魅力化評価システム」における現時点の数値から数値目標を設定					
b	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 主体性、協働性、探究性、社会性における「行動実績」で肯定的意見が80％以上					単位：％
	75	78	80	83	85	85
	目標設定の考え方：「高校魅力化評価システム」における現時点の数値から数値目標を設定					
c	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 安心・安全の土壌、多様性の土壌、対話の土壌、開かれた土壌における生徒の肯定的意見が90％以上					単位：％
	86	87	88	90	90	90
	目標設定の考え方：「高校魅力化評価システム」における現時点の数値から数値目標を設定					
d	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 学び共創フォーラムへの参加者数					単位：人
	－	50	75	100	100	100
	目標設定の考え方：全国に取組を広げる際に、率先垂範で地域や生徒の学びをつくることのできる人の数					

＜調査の概要について＞

1．生徒を対象とした調査について

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
全校生徒数（人）	158	164	164		－
本事業対象生徒数			164		－
本事業対象外生徒数			0		－

（３）普通科改革支援事業ロジックモデル



（４）事業評価資料　令和５年度　高校魅力化評価システム（６月実施）結果

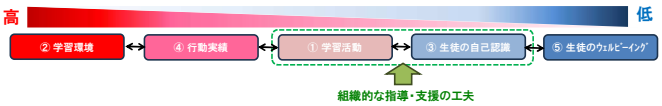
令和５年度　第１回高校や地域の学習環境に関するアンケート（高校魅力化評価システム）結果概要

総括表

	主体性			協働性			探究性			社会性		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
① 学習活動	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3
② 学習環境	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
③ 自己認識	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
④ 行動実績	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
⑤ ウェルビーイング		2	2		4	4		3	3		3	3

※肯定的回答割合が50%未満=1, 50~65%=2, 65%~80%=3, 80%以上=4

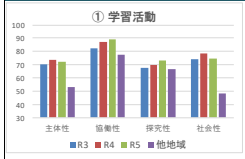
隠岐島前高校のアンケート結果の傾向



・隠岐島前高校の特徴は、例年どおり恵まれた「②学習環境（学びの土壌）」の中、他地域に比べ「④行動実績」が高いが、「①学習活動」や「③自己認識」の成果が思うほど出ていない点にある。

側面別分析（概要）

①学習活動（明示的なカリキュラム）　→　学校や地域でどのように学ぶか～生徒の学習活動の量や頻度を現す～



・主体性について、「学校外のいろいろな人に話を聞きに行く」は微増だが「自主的に調べ物や取材を行う」は微減。

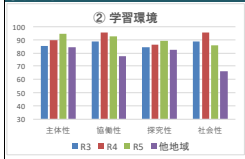
・協働性について、「生徒同士やグループでの活動は伸びているが「学習内容について大人と話し合う」は下降。特に1年生は大きく下降。

・探究性について、「学習の振り返りを行う」が2・3年生で大きく伸びる一方、「自分の考えを文章や図表にまとめる」は下降。

「振り返り」の効果が授業の場面でも意識的に行われるようになったのではないか。形成的評価の面でも重要であり、さらにスコアが高くなることを期待する。

身近な者とおして話し合うことは得意だが、自己の考えを整理して文などの言語化、図などの可視化の過程や学習の自主性も弱い。組織的な対応が必要。

②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）　→　どのような環境の中で学ぶか～大人のあり方や学習環境の質を現す～



・主体性について、「失敗してもよいという雰囲気がある」が大きく伸びる半面、「尊敬している・憧れている大人がいる」が大きく後退している。

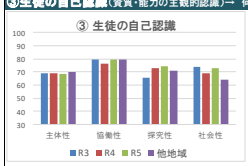
・協働性について、「立場や役割を超えて協働する機会」がすべての学年で上昇している。

・探究性について、「じっくり話を聞き、考える手助けをする大人」は大きく伸びているが、「本音を気兼ねなく発言できる雰囲気」は全ての学年で下降。特に1年生の下降幅が大きい。

「踏み込み」の雰囲気が醸成されつつあるのではないか。

「本音を気兼ねなく発言できる雰囲気」が醸成されていないことは、多様性を認め合う学校づくりに向けて重要な課題。学級・学年経営、寮運営、授業や部活動等、あらゆる面で分析と改善が必要。

③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）→　何ができるようになったか～新学習指導要領の重要な視点



・主体性について、すべての学年で「自分自身に満足している」、「自分で計画を立てて活動する」のスコアが減少する一方、1・3年生は「忍耐強く物事に取り組む」が微増している。

・協働性について、すべての学年で「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」のスコアが下降している。

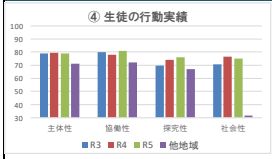
・探究性について、「自分から勉強する」、「学校の学習で自分ができることやしたいことが増えている」が、1・3年生で上昇している。また「複雑な問題を順序だてて考える」が3年生で上昇している。

・社会性について、「地域の問題にかかわりたい」、「自分の住んでいる地域に役立ちたい」、「自分の将来について明るい希望を持っている」が1・3年生で上昇し、「見知らぬ土地でチャレンジしたい」はすべての学年で上昇している。

①で触れたとおり、「身近な者と話し合う事は好きだが、自分の考えがはっきり相手に伝わっているか不安」であることが伺われ、自己の意見を適切に表現する訓練が必要。

すべての質問項目で、2年生（特に普通科）のスコアが低い。学年部・教科会を中心に丁寧な面談・自己分析等に基づく支援・指導が必要。

④行動実績（資質・能力の発揮）



・主体性について、「授業でわからないことを質問する」は全ての学年で上昇した。

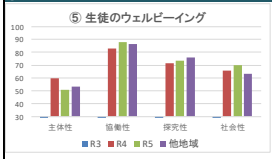
・協働性について、「友人などから意見やアドバイスが求められた」が1・3年生で上昇した。

・探究性について、「なぜそうなるのかと疑問をもって」は1・3年生で上昇した。

・社会性について、「ボランティア活動に参加した」が1・3年生で上昇した。

1・3年生を中心に批判的思考に伴い、納得するまで取り組もうとする姿勢が伸びており、本校の教科学習・探究学習での取り組みが成果として現れたものと期待したい。

⑤ウェルビーイング



・主体性について、すべての学年で「生活満足度」「自身の幸福度」は下降しているが、「日常生活の不安や心配事がない」は上昇しており、関連が見出せない。

・協働性について、全ての学年で「この学校に入ってよかった」、「学校の一員と感じる」が上昇している。

学校満足度は高いが、自己の幸福感・満足感は低いことから、自己肯定感・効力感の育成のためにも生徒一人ひとりに丁寧な聞き取りが必要。

令和5年度　第1回「高校魅力化評価システム」結果（学年別）

数値は肯定的回答の割合を示す。

		全校			1年生			2年生			3年生			県平均	全国平均
		2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度	2023年度
		1回	1回	1回	1回	1回		1回	1回		1回	1回		6月30日	6月30日
				145人			50人			46人			48人	4886人	5139人
①学習活動（明示的なカリキュラム）	**主体性に関わる学習活動**	70.5	73.7	72.1	70.5	76.0	70.0	67.6	71.8	70.7	69.6	73.5	75.0	53.5	53.8
	5.自主的に調べ物や取材を行う	78.4	78.9	77.2	78.4	70.8	76.0	72.2	80.0	73.9	78.6	85.7	81.3	73.0	73.0
	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	62.6	68.4	66.9	62.6	81.3	64.0	63.0	63.6	67.4	60.7	61.2	68.8	34.1	34.6
	協働性に関わる学習活動	82.5	87.1	89.0	82.5	89.6	88.0	80.9	86.7	87.7	88.1	85.0	91.0	78.0	78.1
	7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	90.6	88.8	91.0	90.6	93.8	96.0	90.7	89.1	87.0	89.3	83.7	89.6	86.1	86.2
	8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	87.1	92.1	92.4	87.1	95.8	94.0	81.5	92.7	91.3	92.9	87.8	91.7	90.0	89.8
	9.活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	69.8	80.3	74.8	69.8	79.2	61.5	70.4	78.2	82.7	82.1	83.7	80.0	47.5	47.5
	探究性に関わる学習活動	67.6	69.7	73.4	76.4	68.8	70.0	66.7	61.8	72.8	71.4	79.6	77.1	68.0	67.9
	10.自分の考えを文章や図表にまとめる	81.3	84.9	71.0	67.6	87.5	70.0	87.0	80.0	73.9	82.1	87.8	68.8	66.6	66.6
	11.話し合った内容をまとめる	78.4	75.7	74.2	81.3	72.9	71.2	87.0	72.7	73.1	82.1	81.6	78.2	81.5	81.5
	12.活動、学習のまとめを発表する	78.4	81.6	75.9	78.4	81.3	70.0	77.8	81.8	71.7	75.0	81.6	85.4	65.2	65.2
	13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	76.4	78.0	83.4	78.4	77.6	74.0	79.6	74.1	84.8	77.7	82.7	91.7	67.5	67.4
	社会性に関わる学習活動	74.3	78.5	74.8	74.3	77.1	75.0	83.3	79.4	67.4	66.7	78.9	82.3	49.0	49.3
	14.地域の魅力や資源について考える	81.3	86.8	69.8	81.3	91.7	65.4	92.6	85.5	75.0	75.0	83.7	69.1	46.3	46.3
	15.地域の課題の解決方法について考える	79.1	82.9	86.2	79.1	77.1	86.0	90.7	89.1	82.6	75.0	81.6	89.6	53.5	54.2
	16.日本や世界の課題の解決方法について考える	62.6	65.8	63.4	62.6	62.5	64.0	66.7	63.6	52.2	50.0	71.4	75.0	45.4	45.3
②学習環境（学びの土壌：非明示的なカリキュラム）	**主体性に関わる学習環境**	85.1	89.6	94.3	81.6	90.6	92.7	88.0	90.5	94.2	86.9	87.5	95.8	88.6	88.4
	20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	81.3	88.2	91.0	84.2	85.4	92.0	77.8	89.1	84.8	82.1	89.8	95.8	81.3	80.9
	21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	87.8	95.4	95.6	82.5	97.9	96.2	92.6	98.2	90.4	89.3	89.8	100.0	93.7	93.7
	33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	91.4	94.1	96.2	87.7	95.8	92.3	94.4	94.5	96.2	89.3	91.8	100.0	85.5	85.5
	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	90.6	94.7	71.7	71.9	95.8	64.0	72.2	94.5	76.1	71.4	93.9	77.1	55.3	55.2
	30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	87.2	94.7	93.8	77.2	97.9	92.0	96.3	92.7	95.7	92.9	93.9	93.8	63.9	64.3
	26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	87.2	93.4	96.6	86.0	94.8	92.0	94.4	95.5	100.0	96.4	89.8	97.9	92.5	92.2
	35.周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	-	95.4	95.2	-	95.8	94.0	-	98.2	97.8	-	91.8	93.8	91.4	91.2
	36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	-	92.1	90.3	-	95.8	90.0	-	92.7	93.5	-	87.8	87.5	78.8	78.3
	協働性に関わる学習環境	88.5	95.4	92.6	84.2	93.8	90.0	89.4	98.2	92.0	89.3	93.9	95.8	76.6	76.5
	22.人と違うことが尊重される雰囲気がある	84.2	90.8	91.7	84.2	93.8	90.0	92.6	92.7	89.1	89.3	85.7	95.8	84.0	83.4
	23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	90.6	88.2	91.2	82.5	89.6	88.5	83.3	87.3	90.4	89.3	87.8	94.5	87.6	87.6
	27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	85.6	89.3	93.1	86.0	90.1	94.2	94.4	88.2	86.5	92.9	89.8	98.2	82.9	82.9
	28.立場や役割を超えて協働する機会がある	87.8	86.8	92.4	84.2	85.4	88.0	87.0	83.6	91.3	85.7	91.8	97.9	76.5	76.6
	探究性に関わる学習環境	84.2	86.2	89.3	80.3	87.5	86.0	87.0	85.5	91.3	86.6	85.7	90.6	82.7	82.4
	17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	82.0	93.4	81.4	84.2	95.8	72.0	77.8	92.7	84.8	85.7	91.8	87.5	83.8	83.3
	18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	82.0	90.8	90.3	78.9	91.7	88.0	85.2	90.9	91.3	82.1	89.8	91.7	81.0	80.7
	24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	87.1	82.2	95.2	80.7	85.4	94.0	92.6	83.6	95.7	89.3	77.6	95.8	90.0	89.9
	31.お互いに問いかけあう機会がある	85.6	91.9	86.8	77.2	94.3	84.6	92.6	91.8	84.6	89.3	89.8	90.9	73.4	73.4
	社会性に関わる学習環境	88.5	95.4	86.0	81.1	97.9	82.5	90.3	98.2	88.0	90.2	89.8	88.0	65.9	66.1
	19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	86.5	94.1	92.5	87.7	100.0	92.3	92.6	92.7	88.5	92.9	89.8	96.4	86.8	86.8
	25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	90.6	93.4	95.2	82.5	95.8	92.0	92.6	92.7	97.8	92.9	91.8	95.8	81.2	81.1
	29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	88.5	84.9	92.4	78.9	83.3	92.0	90.7	83.6	91.3	92.9	87.8	93.8	63.6	64.4
	32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	86.3	78.9	84.8	75.4	77.1	82.0	85.2	83.6	87.0	82.1	75.5	85.4	57.1	57.4

		全校			1年生			2年生			3年生			県平均	全国平均
		2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	2023年度	2023年度	2023年度
		1回	1回	1回	1回	1回		1回	1回		1回	1回		6月30日	6月30日
				145人			50人			46人			48人	4886人	5139人
③生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識）	**主体性に関わる自己認識**	69.2	69.0	68.3	75.2	63.1	71.7	65.0	75.6	59.1	65.2	67.3	72.9	69.8	69.3
	【自己肯定感・自己有用感】	68.7	63.5		74.6	54.2		63.0	74.5		67.9	60.2			
	51.自分にはよいところがあると思う	82.7	77.0	75.2	86.0	79.2	82.0	81.5	80.0	67.4	78.6	71.4	75.0	78.2	77.5
	52.私は、自分自身に満足している	54.7	50.0	46.9	63.2	29.2	48.0	44.4	69.1	37.0	57.1	49.0	54.2	53.8	53.2
	【課題設定力】	72.7	78.9		75.4	70.8		70.4	87.3		71.4	77.6			
	39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	72.7	78.9	76.6	75.4	70.8	80.0	70.4	87.3	67.4	71.4	77.6	81.3	72.2	71.9
	【行動力】	61.2	64.1		72.8	59.4		55.6	69.1		48.2	63.3			
	40.目標を設定し、確実に行動することができる	61.2	63.8	62.8	70.2	56.3	64.0	57.4	70.9	50.0	50.0	63.3	72.9	62.7	62.4
	53.自分で計画を立てて活動することができる	61.2	64.5	54.1	75.4	62.5	61.5	53.7	67.3	40.4	46.4	63.3	60.0	67.8	67.8
	【粘り強さ】	74.5	74.3		78.1	71.9		71.3	77.3		73.2	73.5			
	37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	83.5	78.9	77.2	86.0	75.0	80.0	81.5	83.6	71.7	82.1	77.6	79.2	79.9	79.3
	47.忍耐強く物事に取り組むことができる	65.5	69.7	71.0	70.2	68.8	76.0	61.1	70.9	60.9	64.3	69.4	75.0	72.3	71.8
	協働性に関わる自己認識	79.6	76.4	79.7	83.1	74.6	82.0	75.0	81.1	75.0	81.3	73.1	81.3	79.4	79.1
	【受容力】	90.6	91.4		93.0	91.7		90.7	90.9		85.7	91.8			
	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	90.6	91.4	91.7	93.0	91.7	92.0	90.7	90.9	89.1	85.7	91.8	93.8	94.2	93.9
	【対話力】	92.8	88.2		91.2	87.5		92.6	90.9		96.4	85.7			
	42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	92.8	88.2	91.7	91.2	87.5	94.0	92.6	90.9	89.1	96.4	85.7	91.7	90.0	89.7
	【表現力】	64.4	69.4		72.8	64.6		57.4	77.3		60.7	65.3			
	49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	73.4	77.0	65.5	78.9	75.0	68.0	68.5	81.8	58.7	71.4	73.5	68.8	68.7	68.3
	50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	55.4	61.8	56.0	66.7	54.2	59.6	46.3	72.7	44.2	50.0	57.1	63.6	53.7	53.7
	【共創力】	70.5	63.8		75.4	64.6		59.3	69.1		82.1	57.1			
	44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	70.5	63.8	69.7	75.4	64.6	74.0	59.3	69.1	63.0	82.1	57.1	70.8	72.7	72.2
	探究性に関わる自己認識	65.5	73.0	74.3	69.7	71.9	76.3	60.9	73.6	69.0	65.8	73.5	76.8	71.2	70.8
	【学びの意欲】	73.9	74.1		82.5	75.7		64.8	72.7		73.8	74.1			
	38.家や塾で、誰かに言われなくても自分から勉強する	68.3	71.7	76.6	78.9	62.5	86.0	57.4	78.2	63.0	67.9	73.5	79.2	74.9	74.5
	61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	76.3	72.4	71.7	82.5	83.3	68.0	70.4	65.5	73.9	75.0	69.4	72.9	61.4	60.8
	67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	77.0	78.3	83.4	86.0	81.3	90.0	66.7	74.5	73.9	78.6	79.6	85.4	83.2	82.9
	【情報活用能力】	67.3	75.0		73.7	74.0		63.9	77.3		60.7	73.5			
	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	74.1	81.6	79.3	75.4	87.5	82.0	75.9	83.6	76.1	67.9	73.5	79.2	81.9	81.6
	46.勉強したものを実際に応用してみる	60.4	68.4	69.0	71.9	60.4	72.0	51.9	70.9	65.2	53.6	73.5	68.8	67.0	66.7
	【批判的思考力】	45.3	68.1		45.6	61.5		42.6	71.8		50.0	70.4			
	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	45.3	51.3	52.4	45.6	43.8	50.0	42.6	60.0	45.7	50.0	49.0	60.4	46.3	46.0
	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	-	84.9	87.6	-	79.2	82.0	-	83.6	89.1	-	91.8	91.7	79.3	79.1
	【省察力】	75.5	75.7		77.2	77.1		72.2	72.7		78.6	77.6			
	48.自分を客観的に理解することができる	75.5	75.7	74.5	77.2	77.1	80.0	72.2	72.7	65.2	78.6	77.6	77.1	75.3	75.0
	社会性に関わる自己認識	73.7	69.1	72.6	80.2	69.3	76.4	68.0	69.6	65.4	71.7	68.5	75.0	64.6	64.1
	【地域貢献意識】	71.5	67.3		79.5	70.8		65.4	67.9		66.7	63.3			
	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	61.9	60.5	60.0	68.4	62.5	62.0	55.6	56.4	50.0	60.7	63.3	66.7	42.8	42.4
	56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	76.3	70.4	79.3	84.2	77.1	82.0	74.1	74.5	80.4	64.3	59.2	75.0	65.0	64.7
	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	76.3	71.1	77.9	86.0	72.9	86.0	66.7	72.7	65.2	75.0	67.3	81.3	73.5	73.1
	【社会参画意識】	78.7	74.1		83.0	71.5		76.5	75.8		73.8	74.8			
	57.私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	66.9	58.6	60.7	70.2	50.0	62.0	63.0	61.8	58.7	67.9	63.3	62.5	49.8	49.1
	62.地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある	84.2	78.9	84.1	93.0	79.2	86.0	83.3	80.0	78.3	67.9	77.6	87.5	72.6	72.3
	55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	84.9	84.9	89.0	86.0	85.4	86.0	83.3	85.5	87.0	85.7	83.7	93.8	82.9	82.3
	【グローカル意識】	72.2	67.1		78.4	65.3		64.2	67.9		75.0	68.0			
	59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	84.2	77.6	81.1	91.2	81.3	76.9	79.6	72.7	80.8	78.6	79.6	85.5	74.0	74.0
	64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	85.6	77.6	86.2	91.2	77.1	88.0	74.1	78.2	91.3	96.4	77.6	79.2	71.4	70.9
	63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	46.8	46.1	45.5	52.6	37.5	54.0	38.9	52.7	26.1	50.0	46.9	54.2	50.1	49.7
	【持続可能意識】	72.7	67.4		79.8	69.8		65.7	65.5		71.4	67.3			
	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	68.3	66.4	71.7	80.7	70.8	76.0	61.1	63.6	63.0	57.1	65.3	75.0	60.9	60.5
	68.自分の将来について明るい希望を持っている	77.0	68.4	71.0	78.9	68.8	82.0	70.4	67.3	54.3	85.7	69.4	75.0	73.8	73.3
④生徒の行動実績（資質・能力の発揮）	**主体性に関わる行動実績**	78.8	79.3	79.0	78.1	76.0	78.0	78.7	78.2	72.8	80.4	83.7	85.4	72.0	71.8
	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	80.6	82.9	85.5	80.7	85.4	86.0	79.6	81.8	84.8	82.1	81.6	85.4	82.8	82.6
	74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	77.0	75.7	72.4	75.4	66.7	70.0	77.8	74.5	60.9	78.6	85.7	85.4	61.2	61.0
	協働性に関わる行動実績	79.9	78.0	81.0	86.8	75.0	80.0	75.9	79.1	76.1	73.2	79.6	86.5	72.6	72.3
	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	81.3	77.0	80.0	86.0	70.8	78.0	79.6	74.5	73.9	75.0	85.7	87.5	71.0	70.8
	73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	78.4	78.9	82.1	87.7	79.2	82.0	72.2	83.6	78.3	71.4	73.5	85.4	74.2	73.8
	探究性に関わる行動実績	69.8	74.0	75.9	77.2	72.9	77.0	65.7	73.6	69.6	62.5	75.5	80.2	68.5	68.0
	75.授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	74.1	74.3	78.6	75.4	68.8	76.0	70.4	76.4	71.7	78.6	77.6	87.5	70.5	70.1
	76.公式やきまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	65.5	73.7	73.1	78.9	77.1	78.0	61.1	70.9	67.4	46.4	73.5	72.9	66.5	65.8
	社会性に関わる行動実績	70.7	76.3	75.2	70.8	79.9	81.0	71.6	77.0	69.6	69.0	72.1	75.0	29.5	29.6
	69.いま住んでいる地域の行事に参加した	61.9	74.3	77.2	56.1	77.1	82.0	66.7	76.4	71.7	64.3	69.4	77.1	26.6	27.0
	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	64.7	67.1	73.1	66.7	68.8	80.0	64.8	74.5	67.4	60.7	57.1	72.9	23.2	23.4
	77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	85.6	87.5	86.8	89.5	93.8	88.5	83.3	80.0	82.7	82.1	89.8	89.1	58.5	58.5

（５）事業評価資料　令和５年度　高校魅力化評価システム結果（１回目・２回目比較）

令和5年度「高校魅力化アンケート」結果比較

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識） →「授業アンケート」と関連		1年生	2年生	普通科	地域共創科	3年生
主体性に関わる自己認識						
【自己肯定感・自己有用感】						
51 自分にはよいところがあると思う	1回目	81.6%	68.1%	62.1%	77.8%	76.6%
	2回目	83.7%	62.2%	51.6%	85.7%	83.6%
52 私は、自分自身に満足している	1回目	46.9%	36.2%	31.0%	44.4%	57.4%
	2回目	51.0%	42.2%	25.8%	78.6%	69.1%
【課題設定力】						
39 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	1回目	79.6%	68.1%	55.2%	88.9%	80.9%
	2回目	73.5%	71.1%	61.3%	92.9%	87.3%
【行動力】						
40 目標を設定し、確実に行動することができる	1回目	65.3%	48.9%	34.5%	72.2%	72.3%
	2回目	67.3%	42.2%	32.3%	64.3%	81.8%
53 自分で計画を立てて活動することができる	1回目	61.5%	40.4%	34.4%	50.0%	60.0%
	2回目	63.3%	40.0%	25.8%	71.4%	87.3%
【粘り強さ】						
37 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	1回目	79.6%	72.3%	58.6%	94.4%	78.7%
	2回目	81.6%	75.6%	67.7%	92.9%	87.3%
47 忍耐強く物事に取り組むことができる	1回目	75.5%	59.6%	51.7%	72.2%	74.5%
	2回目	71.4%	62.2%	48.4%	92.9%	83.6%
協働性に関わる自己認識						
【受容力】						
43 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	1回目	91.8%	89.4%	93.1%	83.3%	93.6%
	2回目	89.8%	95.6%	93.5%	100.0%	92.7%
【対話力】						
42 相手の意見を丁寧に聞くことができる	1回目	93.9%	89.4%	86.2%	94.4%	91.5%
	2回目	89.8%	88.9%	87.1%	92.9%	89.1%
【表現力】						
49 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	1回目	67.3%	59.6%	51.7%	72.2%	72.3%
	2回目	67.3%	64.4%	54.8%	85.7%	81.8%
50 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	1回目	59.6%	44.2%	37.5%	55.0%	63.6%
	2回目	65.3%	53.3%	41.9%	78.6%	72.7%
【共創力】						
44 共同作業だと、自分の力が発揮できる	1回目	73.5%	63.8%	65.5%	61.1%	72.3%
	2回目	81.6%	62.2%	61.3%	64.3%	72.7%
探究性に関わる自己認識						
【学びの意欲】						
38 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	1回目	85.7%	63.8%	51.7%	83.3%	78.7%
	2回目	77.6%	66.7%	51.6%	100.0%	81.8%
61 地域社会の魅力化や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	1回目	67.3%	72.3%	55.2%	100.0%	72.3%
	2回目	71.4%	57.8%	41.9%	92.9%	70.9%
67 学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	1回目	89.8%	74.5%	65.5%	88.9%	85.1%
	2回目	77.6%	75.6%	64.5%	100.0%	92.7%
【情報活用能力】						
45 情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解できる	1回目	81.6%	76.6%	69.0%	88.9%	78.7%
	2回目	83.7%	75.6%	71.0%	85.7%	85.5%
46 勉強したものを実際に応用してみる	1回目	73.5%	66.0%	65.5%	66.7%	70.2%
	2回目	65.3%	55.6%	45.2%	78.6%	74.5%
【批判的思考力】						
41 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	1回目	49.0%	46.8%	48.3%	44.4%	59.6%
	2回目	49.0%	51.1%	38.7%	78.6%	54.5%
54 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	1回目	81.6%	89.4%	89.7%	88.9%	91.5%
	2回目	81.6%	75.6%	64.5%	100.0%	87.3%
【省察力】						
48 自分を客観的に理解することができる	1回目	79.6%	66.0%	62.1%	72.2%	76.6%
	2回目	73.5%	75.6%	71.0%	85.7%	78.2%

③ 生徒の自己認識（資質・能力の主観的認識） →「授業アンケート」と関連		1年生	2年生	普通科	地域共創科	3年生
社会性に関わる自己認識						
【地域貢献意識】						
65 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	1回目	61.2%	51.1%	37.9%	72.2%	68.1%
	2回目	61.2%	57.8%	41.9%	92.9%	61.8%
56 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	1回目	81.6%	78.7%	65.5%	100.0%	76.6%
	2回目	77.6%	71.1%	61.3%	92.9%	78.2%
58 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	1回目	87.8%	63.8%	51.7%	83.3%	80.9%
	2回目	79.6%	64.4%	51.6%	92.9%	81.8%
【社会参画意識】						
57 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	1回目	61.2%	59.6%	48.3%	77.8%	61.7%
	2回目	63.3%	62.2%	51.6%	85.7%	70.9%
62 地域や社会での問題やできごとに関心がある	1回目	85.7%	78.7%	65.5%	100.0%	87.2%
	2回目	79.6%	75.6%	64.5%	100.0%	89.1%
55 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	1回目	85.7%	87.2%	79.3%	100.0%	93.6%
	2回目	77.6%	80.0%	74.2%	92.9%	96.4%
【グローカル意識】						
59 地域の課題と世界での課題はお互いに関連していると思う	1回目	76.9%	80.8%	71.9%	95.0%	85.5%
	2回目	77.6%	73.3%	64.5%	92.9%	83.6%
64 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	1回目	87.8%	91.5%	89.7%	94.4%	83.0%
	2回目	75.5%	86.7%	80.6%	100.0%	85.5%
63 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	1回目	53.1%	25.5%	17.2%	38.9%	53.2%
	2回目	40.8%	24.4%	12.9%	50.0%	54.5%
【持続可能意識】						
60 住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えたい	1回目	75.5%	61.7%	48.3%	83.3%	74.5%
	2回目	71.4%	55.6%	41.9%	85.7%	72.7%
68 自分の将来について明るい希望を持っている	1回目	81.6%	55.3%	41.4%	77.8%	76.6%
	2回目	75.5%	62.2%	51.6%	85.7%	80.0%

④ 生徒の行動実績（資質・能力の発揮）		1年生	2年生	普通科	地域共創科	3年生
主体性に関わる行動						
71 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	1回目	85.7%	85.1%	86.2%	83.3%	87.2%
	2回目	81.6%	88.9%	83.9%	100.0%	85.5%
74 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	1回目	69.4%	61.7%	48.3%	83.3%	85.1%
	2回目	69.4%	62.2%	51.6%	85.7%	87.3%
協働性に関わる行動						
72 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	1回目	77.6%	74.5%	65.5%	88.9%	89.4%
	2回目	75.5%	80.0%	71.0%	100.0%	92.7%
73 友人などから、意見やアドバイスを求められた	1回目	81.6%	78.7%	75.9%	83.3%	85.1%
	2回目	79.6%	71.1%	64.5%	85.7%	85.5%
探究性に関わる行動						
75 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	1回目	75.5%	72.3%	65.5%	83.3%	87.2%
	2回目	79.6%	75.6%	64.5%	100.0%	85.5%
76 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	1回目	77.6%	68.1%	65.5%	72.2%	72.3%
	2回目	71.4%	64.4%	51.6%	92.9%	81.8%
社会性に関わる行動						
69 いま住んでいる地域の行事に参加した	1回目	81.6%	70.2%	58.6%	88.9%	78.7%
	2回目	69.4%	66.7%	58.1%	85.7%	72.7%
70 地域社会などでボランティア活動に参加した	1回目	79.6%	68.1%	55.2%	88.9%	72.3%
	2回目	63.3%	55.6%	35.5%	100.0%	69.1%
77 先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	1回目	88.5%	82.7%	71.9%	100.0%	89.1%
	2回目	75.5%	75.6%	71.0%	85.7%	90.9%

（６）普通科改革支援事業第３回コーディネーター研修（令和６年２月２２日）資料一部

新学科 地域共創科の経営におけるコーディネーターのあり方
ー事例発表② 高校コーディネーターの発展に向けてー

2024/02/22 高校コーディネーター全国フォーラム 事例発表

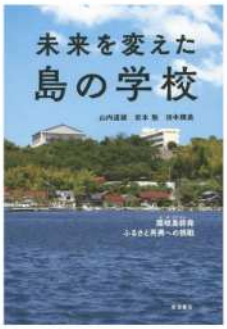
一般財団法人
島前ふるさと魅力化財団
島前教育魅力化プロジェクト

隠岐島前教育魅力化PJの目的

私たち隠岐島前教育魅力化プロジェクトのビジョンは、
「魅力的で持続可能な学校と地域をつくる」ことです。
私たちが根ざす島根県隠岐諸島の島前地域
（西ノ島町・海士町・知夫村）で、
島の暮らしにある幸せや豊かさが長く続くことに、
教育分野から貢献することを目指しています。

現在では、日本各地に広まっている『高校魅力化プロジェクト』は、隠岐島前が発祥の地です。
生徒減が続き高校がなくなると、町はより一層衰退する。そのことに危機感を持った地域が、県立高校と協働することでプロジェクトを立ち上げた。それが10年の時を経て全国的な事例となりました。

未来を変えた島の学校　隠岐島前高校



意志ある未来に向けて理想の学びを創る精神

家庭の事情から高校に行けない島前の子どもたちのために**地域住人の高校建設に対する激しい意欲と苦闘**の結果、昭和30年に悲願の開校を果たした。
高校といっても当初は小学校舎を利用した分校であり職員机四脚、古い生徒用机30人分、オンボロミシン一台、黒板一枚が全財産だった。
その後、地元町村や保護者等の多大な負担により校舎を建設。運動場や通学路なども住民や教職員、生徒の手で整備され、その奉仕作業の過程で尊い命の犠牲もあった。まさに**住民の身命を賭した「地域の学校」**だった。
当時、国の法律に基づき分校は定時制だったが、県や国への熱意と誠意ある働きかけによって**国の法文を改正させ**、昭和33年には全国で初めて全日制分校に移行した。
その後も**住民の希望を担い教員と町村代表が働きかけを続け、昭和40年には念願の独立を果たし、島根県立隠岐島前高等学校として自立した。**

グローカル人材の育成に向けて挑戦し続けた14年間

地域×キャリア教育
探究的な学び
プロジェクト型学習
島まるごと学校

離島中山間地で初のSGH／地域との協働による高等学校教育改革推進の指定／JICAと協働した海外渡航プログラム／自治を目指す教育寮／公立塾との連携協働／ICT教育活用...etc

新学科を立ち上げる好機

中央教育審議会（令和3年1月答申）
『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』

現行法令上「普通教育を主とする学科」は普通科のみとされているが、約7割の高校生が通う学科を「普通科」として一括りに議論するのではなく**「普通教育を主とする学科」を置く各高等学校がそれぞれの特色化魅力化に取り組むことを推進**する。

文部科学省（令和4年　一次公募）
『新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）』

新しい普通科を設置する予定の高等学校等に対し、関係機関等との連携協力体制の整備やコーディネーターの配置などの支援を行い**新学科設置の取り組みを推進する。**

新学科の構想は9年前からあった！

2014年に発行した
『新魅力化構想』p49

現在は「普通科」1学科内に「2コース」を設けているが、今後はこのコースを**学科に進化させ教育内容の特色化を図る（省略）地域創造が期待される。**

一人一人の時間割を設計する新たな総合学科的な形態の可能性も検討する。

普通科改革支援事業の採択校として

令和4年度　準備期間
令和5年度　1期生誕生

「仲間と共に、大人と共に地域と共に、意志ある未来を創る」をスローガンに2年次から、地域共創科を選択できる体制を構築した。

毎週1日を学校外で活動できる「地域共創DAY」をカリキュラムの特徴として、20名の生徒と教員、コーディネーターが試行錯誤の1年が始まった。

話題提供の内容

新学科 地域共創科の2年間を振り返り

Y	隠岐島前のコーディネーターが	やったこと
W	〃	わかったこと
T	〃	次にやること

現在も試行錯誤中です。
その経験から**重要と考えるY,W,T**を話題提供します。

コーディネーターの発展・新しい価値づくり
魅力化・普通科改革・地域との協働のブレイクスルー

Y　新学科カリキュラム策定ワーキング

2年間、毎週実施、半日合宿も複数回実施

学校経営補佐官、主幹教諭、探究推進担当、教務主任、学習センター長、ハウスマスター、高校コーディネーター、
＋
外部サポーター、外部有識者

年間計画
哲学形成
伴走体制
食事交通
安全管理
成績評価
地域理解

今までの自分たちを問い直す時が来た

- 高校・高校生は地域を消費してはいないか？
- いつの間にか学校の世界に閉じていないか？
- 生徒の個性と創造性は発揮されているか？
- 学ぶことで止まっていないか？

Y　「地域共創」というビジョンを掲げる

カリキュラム策定、仕組み化、運営チームの目線合わせのためにも新学科のビジョンを検討した。

探究的な学び プロジェクト学習 ▶ 高度化する
地域との協働 地域からの支援 ▶ 関係を深める

新しい普通？特色化しているか？

Y　「地域共創」というビジョンを掲げる

カリキュラム策定、仕組み化、運営チームの目線合わせのためにも新学科のビジョンを検討した。

探究的な学び プロジェクト学習 ▶
地域との協働 地域からの支援 ▶
vision
仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る

新しい普通としての**地域共創**

Y　新しい仕組みを創る

ビジョン（地域共創）が現実化するための、仕組み・環境を創り出す。

特徴的な仕組み

1日自由に活動	クラス・学年を超えた	多面的対話的な
共創DAY	**伴走ゼミ**	**評価システム**
（学校独自設定科目）	（4つのゼミ）	（合意に基づく成績）

Y　新しい仕組みを創る

ビジョン（地域共創）が現実化するための、仕組み・環境を創り出す。

特徴的な仕組みの背景にある考え

生徒に時間を返す	「学んだ」で終わらない	指導と評価の深化
1日自由に活動 共創DAY（学校独自設定科目）	クラス・学年を超えた 伴走ゼミ（4つのゼミ）	多面的・対話的な 評価システム（合意に基づく成績）

時間を生徒に、地域に返す

学校独自設定科目【地域未来共創】

朝	1限	2限	3限	4限	5限	6限	放課後

✓毎週6コマぶち抜き。
✓原則、予定は生徒が組む。
✓登校、帰校の必要性はない。

隔週で総合的な探究の時間
【夢探究】

1コマ	2コマ

活動時間は従来の4倍 ▶ 生徒・地域のアクション量も4倍

クラスでもチームでもなく個人×ゼミ

生徒の多様な関心を汲み取りつつ
隠岐島前での真正性のある4領域でゼミを組成

- ものづくり技術ゼミ
- 教育・福祉医療ゼミ
- 自然農林水産ゼミ
- 暮らし交流ゼミ

Y 新しい仕組みの例 指導と評価の深化

新しい指導と評価のあり方を目指して成績評価の仕組みを創る。

レポート試験 | 記録ノート | 活動観察 | 活動発表

生徒の共創活動を多面的に捉えて指導と評価に活かす（多面的評価）

＋

生徒の自己評価	対話（面談）による評価への合意

教員⇒生徒の一方向的な評価の関係から脱却
共に同じ方向を見て進むための評価文化へ
≒共創性

W グレーゾーンの可能性を探る

新学科のカリキュラム策定会議をやっていて分かったこと。

新学科を創ることは、多くの教員にとっても未経験で悩ましい仕事といえる。

ビジョン | 学び方
学びの場 | リソース
ステークホルダー

数々の"新しい"内容、未来を考え、実現までのプロセス設計が必要になる。

W グレーゾーンの可能性を探る

学校にとっての未経験、未知を切り拓くことにこそコーディネーターの価値がある。

新学科を創ることを、**新しいプロジェクト**を立ち上げて実行すると考えると、コーディネーターが学校教育外で実践してきた経験が活かせる。

学校がグレーゾーンに踏み込む時

コーディネーターの
真価が発揮される！

W 延長線上で考えない 飛躍させること

未経験に踏み込むときに、これまでの延長線上で考えると遠くへ行くことはできない。一気に飛躍させることでプロジェクトは活性化する。

延長線上で考える	新しいことを考える
※探究の高度化も「探究学習」の延長線上といえる。	

W 違う価値基準を示す

「生徒のため」か「地域のため」か？という二項対立のを超えて、学校の中でも二項並存の必要性を示してこそ学校と社会を繋ぐ存在では？

探究学習 in地域
- 生徒の学び成長
- 大人の気づき

本気の地域共創
- 生徒の学び成長
- 地域の変化 社会的インパクト

W これまでを手放す（アンラーンの）仕組み

これは、拘りor囚われ？

時間割は、学校が決めるもの。

評価は、教員が行うもの。

W これまでを手放す（アンラーンの）仕組み

学校が、教員がやらなければならないという囚われから脱することで、真に拘りたいものが何なのかが見えてくる。

時間割は、生徒各自が創る。

地域共創DAYとして仕組化

これまでの見方、考え方を問いなおす機会になる。

評価は、大人と生徒で創る。

対話型の評価システムとして仕組化

Q コーディネーターに必要なあり方とは？

教育経営×地域経営の視点を持った学校の「非常識」

広報マ　指導者　研究者

T 隠岐島前のコーディネーターが次にやること

問いをもって試行錯誤し、未来に踏み込んでいく

T 隠岐島前のコーディネーターが次にやること

手を取り合って、遠くへ歩いていく

T 隠岐島前のコーディネーターが次にやること

隠岐島前高校の生徒プレゼンテーションを東京・大阪・世界で開催！

- 共感と投資によるリソース獲得
- 生徒のキャリア開拓
- 社会からのフィードバック獲得

T 隠岐島前のコーディネーターが次にやること

教育の成果や地域の変化は測りにくい、、、しかし、成果を出すことにこだわり続けないといけない。

- ・学校評価アンケート
- ・MURCや大学による経済効果の分析
- ・学校、地域における生徒の教育活動・学習環境の評価システム

- ・地域の健康寿命
- ・自治体魅力度ランキング
- ・育児環境指標と出生数
- ・還流人口、関係人口
- ・卒業生のキャリア形成

...etc

様々な価値を測り、高める

原　周右（はら　しゅうすけ）

大阪府堺市出身　33歳
島前移住3年目（From松江）
（一財）島前ふるさと魅力化財団
高校魅力化コーディネーター
島根大学社会教育主事講習講師

相談以外でも連携・協働の案件依頼などあればお気軽にご連絡下さい。
＜連絡先＞
Mail：hara.syusuke@dozen.ed.jp

島前ふるさと魅力化財団　https://www.okidozen.jp/
島根県立隠岐島前高等学校　https://www.dozen.ed.jp/

※視察、研修等のご依頼は島前ふるさと魅力化財団までご相談ください。

（７）中間発表プロジェクト一覧

所属ゼミ	プロジェクト名
自然・農林水産	隠岐の食材でジェノベーゼ
	海洋ごみ
	商店と島
	竹の6次産業
	島前の星空
くらし・交流	未利用魚を再利用
	サーキュラーエコノミー
	お金と教育
	地域のみんなが集まる場所
	海士に未来の移動手段を
	インバウンド in Ama
	本と図書館
	休日にできること
ものづくり・技術	フードロス
	食で繋ぐ地域と寮
	森の遊び場
	デジタル推進委員
教育・医療・福祉	異質との共存を学校教育の視点から考える
	お年寄りが楽しめる時間づくり
	異文化理解を通して